

令和3年度  
地域福祉に関するアンケート  
(地域コミュニティ対象)  
【報告書】

令和3年8月

龍ヶ崎市福祉部社会福祉課  
社会福祉法人龍ヶ崎市社会福祉協議会



## アンケートの概要

調査目的：当市においては、市民が主体となり、共に助け合い、支えあいながらすべての市民が地域で活躍できることを目指す取組である「地域福祉」の推進を図っている。地域で様々な役割を担い、住みよいまちづくりに尽力されている方々を対象に、地域が抱える課題や地域福祉に関する意見などを聴取することにより、更なる地域福祉の推進に向けた基礎資料とする。

調査期間：令和3年4月1日から6月30日まで

調査設計：①調査対象 各地域コミュニティ協議会役員、住民自治組織代表者など  
②調査方法 持参による配布、ボックス設置による回収

配布数：655

回収数：287件（回収率43.82%）

有効回答：287件

※以下、断りのない限り、各設問の回答の母数は【287】

条件設問等一部が対象者となる設問では、集計表左上のセルに「(n=〇〇)」と表記する

## 集計に関する注意書き

・条件回答の要件を満たさないときに記載のあった回答は、有効回答ではないことから、集計しない。

例：「問〇で「1. △△」と答えた方のみ」と条件記載がある設問において、条件該当設問（問〇）で「1. △△」と回答していないのに、この設問に回答記載があった場合、回答する要件を満たしていないので、記載があっても集計しない。

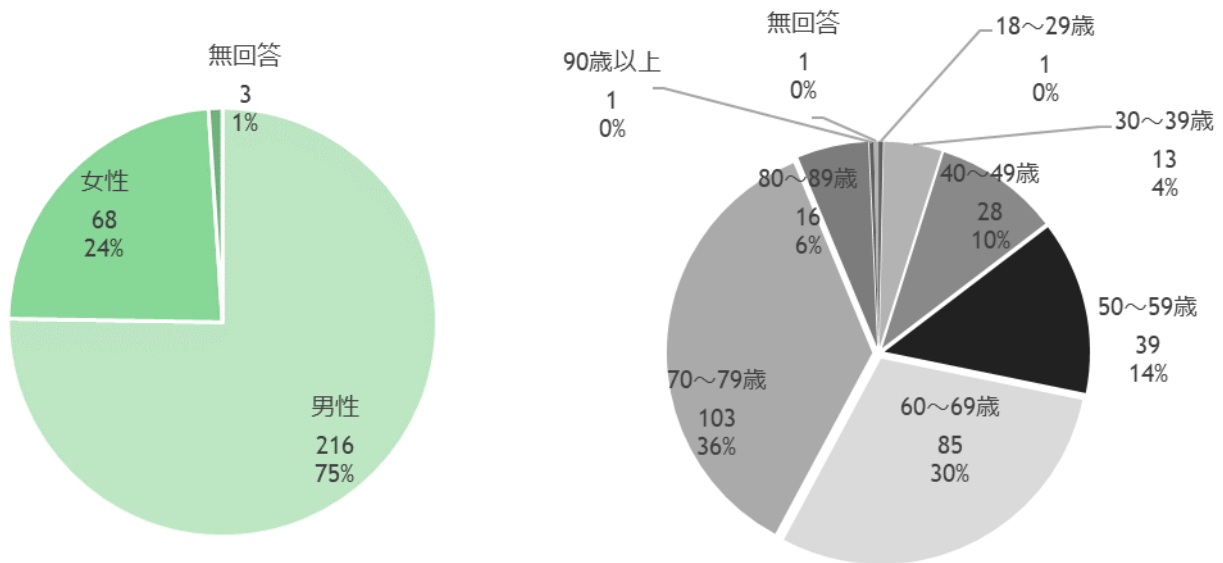
・複数選択式の回答方法の設問で、回答数に制限がある場合に、その数を超過して回答があった場合、超過分については集計しない。

例：「～（〇は3つまで）」と条件記載がある設問において、1～5の5つに〇がついている場合、1～3は制限数に収まるが、4・5は超過となる。そのため、この超過分を集計せず、制限数に収まった分のみを有効回答として集計する。

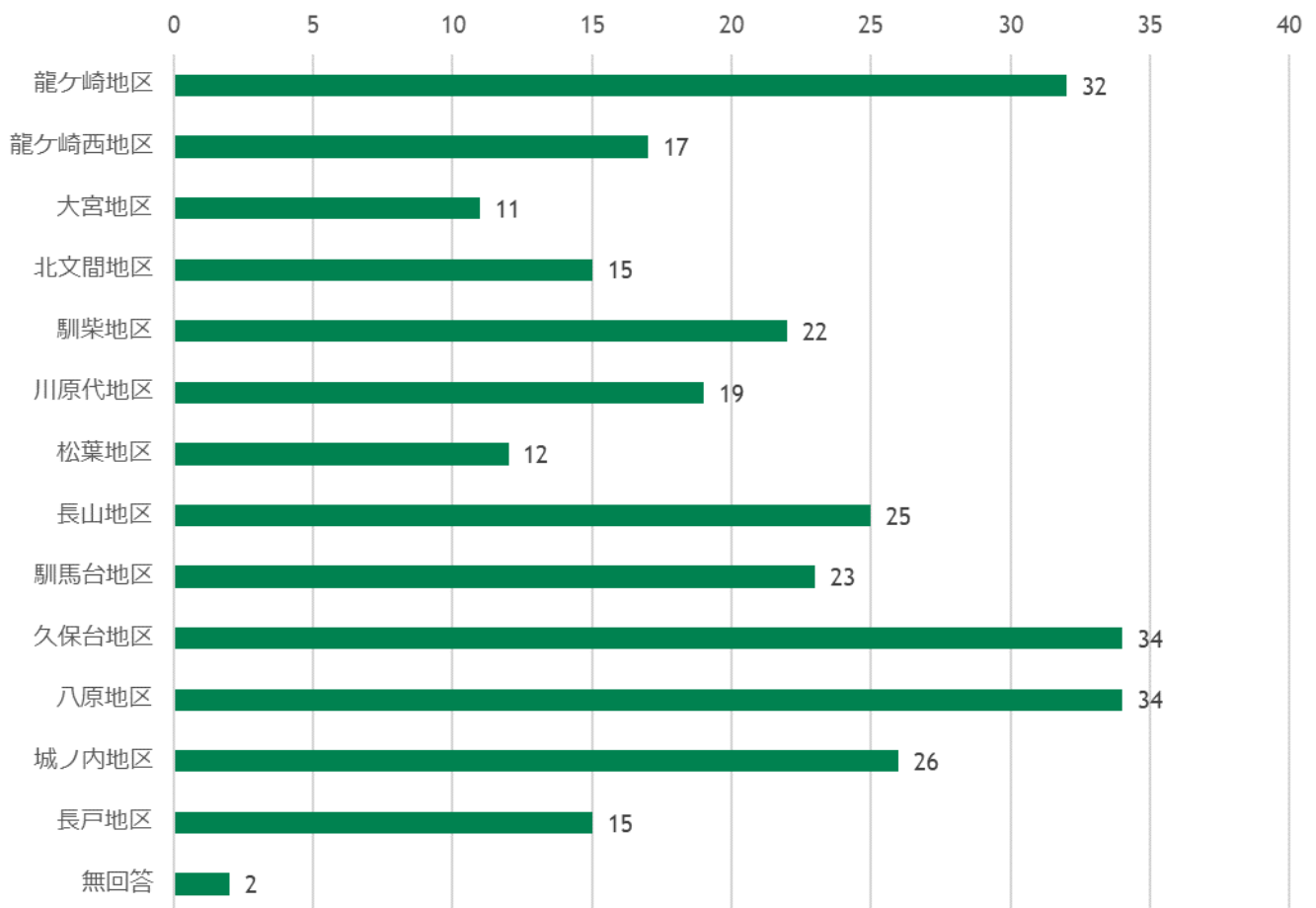
ご自身とご家族のことについておたずねします。

問1 ご自身の性別をお答えください。(1つに○)【左グラフ】

問2 ご自身の年齢をお答えください。(1つに○)【右グラフ】

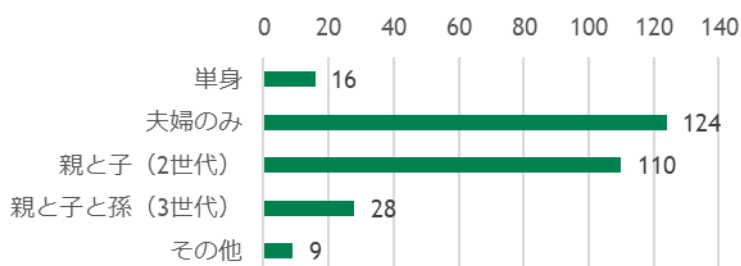


問3 お住まいの地区をお答えください。(1つに○)



問4 現在の家族構成をお答えください。(1つに○)

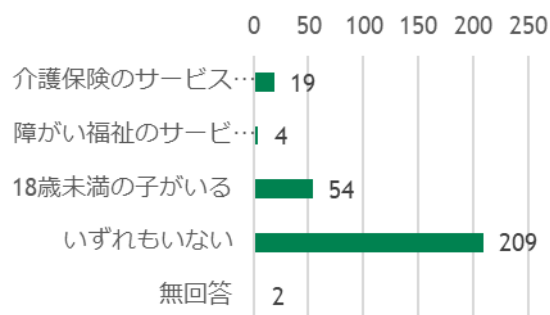
	回答	割合
単身	16	5.57%
夫婦のみ	124	43.21%
親と子(2世代)	110	38.33%
親と子と孫(3世代)	28	9.76%
その他	9	3.14%



その他：夫婦と(義)親，夫婦と子と(義)親，母子(父子)，夫婦と甥

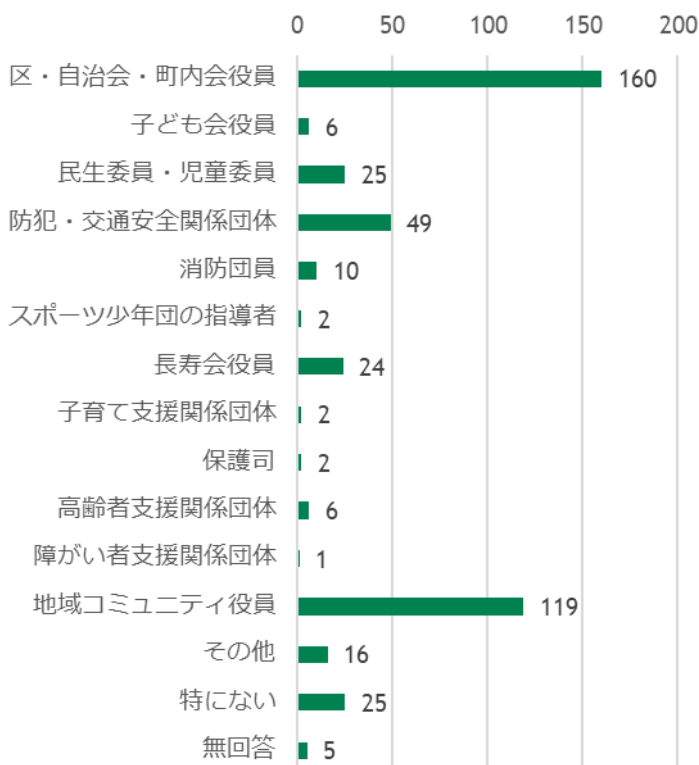
問5 ご自身もしくは、ご家族の中で該当する方はいますか。(あてはまるものすべてに○)

	回答	割合
介護保険のサービスを受けている	19	6.62%
障がい福祉のサービスを受けている	4	1.39%
18歳未満の子がいる	54	18.82%
いずれもない	209	72.82%
無回答	2	0.70%



問6 ご自身やご家族は地域で何らかの役割(役職)を務めていますか。(あてはまるものすべてに○)

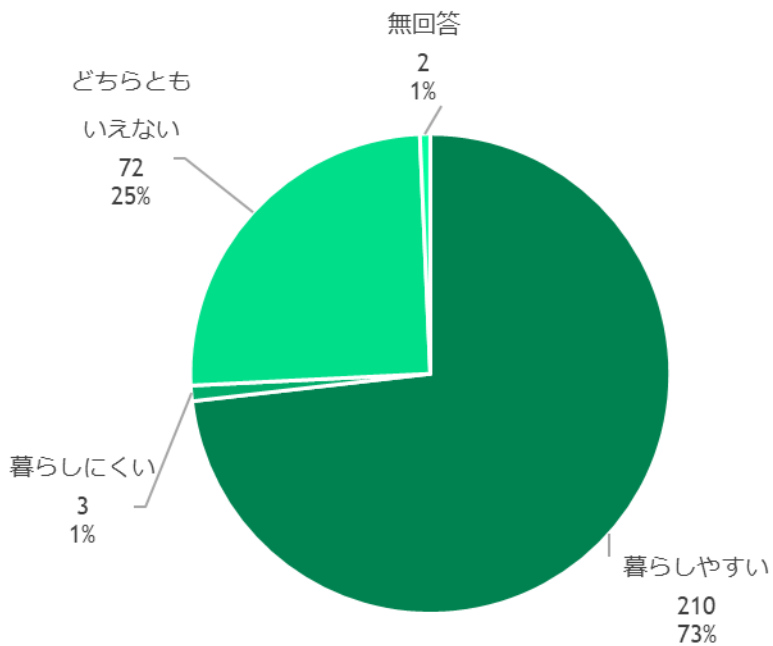
	回答	割合
区・自治会・町内会役員	160	55.75%
子ども会役員	6	2.09%
民生委員・児童委員	25	8.71%
防犯・交通安全関係団体	49	17.07%
消防団員	10	3.48%
スポーツ少年団の指導者	2	0.70%
長寿会役員	24	8.36%
子育て支援関係団体	2	0.70%
保護司	2	0.70%
高齢者支援関係団体	6	2.09%
障がい者支援関係団体	1	0.35%
地域コミュニティ役員	119	41.46%
その他	16	5.57%
特にない	25	8.71%
無回答	5	1.74%



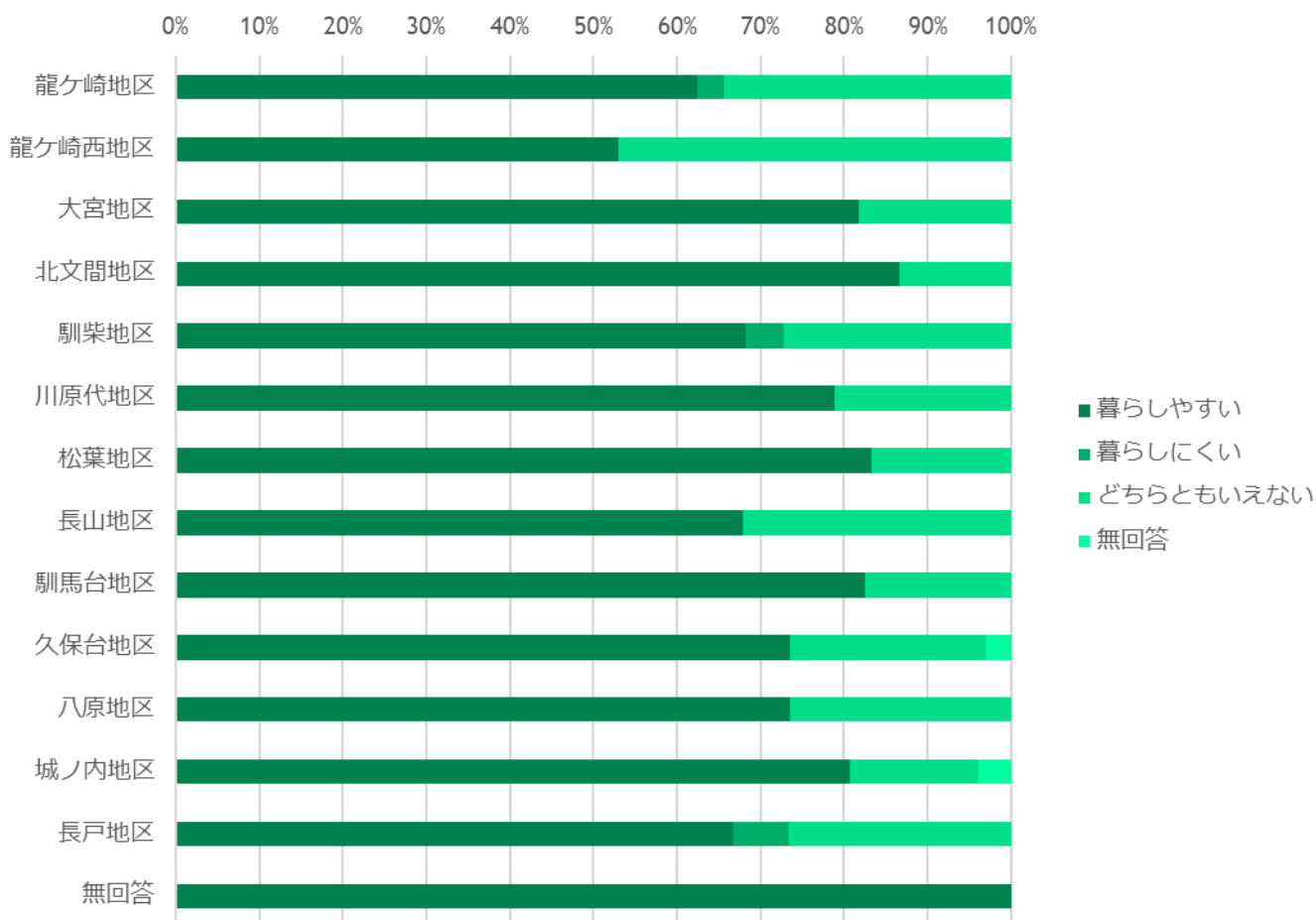
その他：ボランティア(地域、体操など)，スポーツ団体，PTA，市附属機関会議の委員，市地域担当職員，青少年育成会，市民会議，防災士

生活全般についておたずねします。

問7 龍ヶ崎市は暮らしやすいですか。(1つに○)

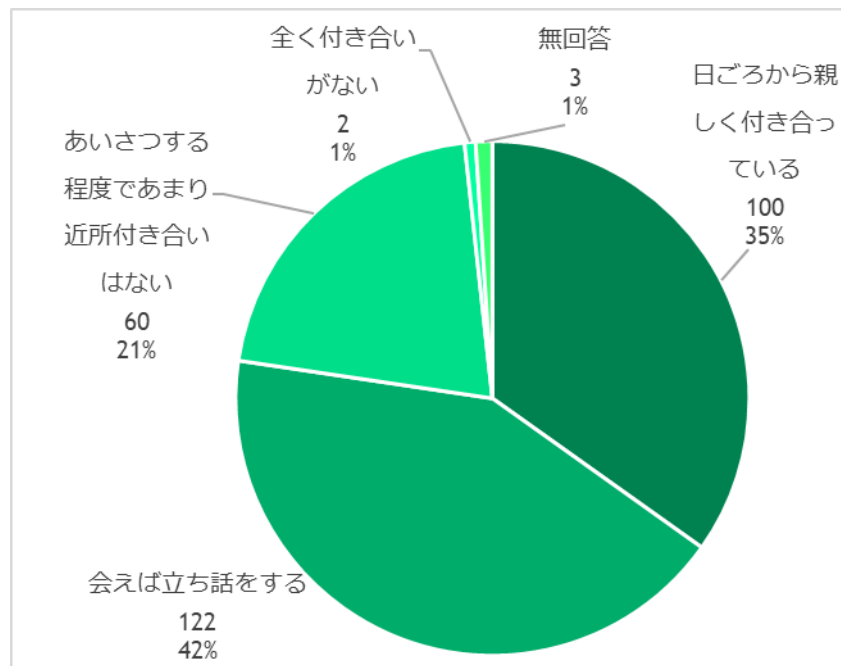


7割超の人（おおむね4人中3人）が、龍ヶ崎市は「暮らしやすい」と回答している。



居住地区でクロス集計したが、居住地区による暮らしやすさの傾向に、特に差は見られない。

問8 ご近所の方とは普段どのようなお付き合いをしていますか。(1つに○)

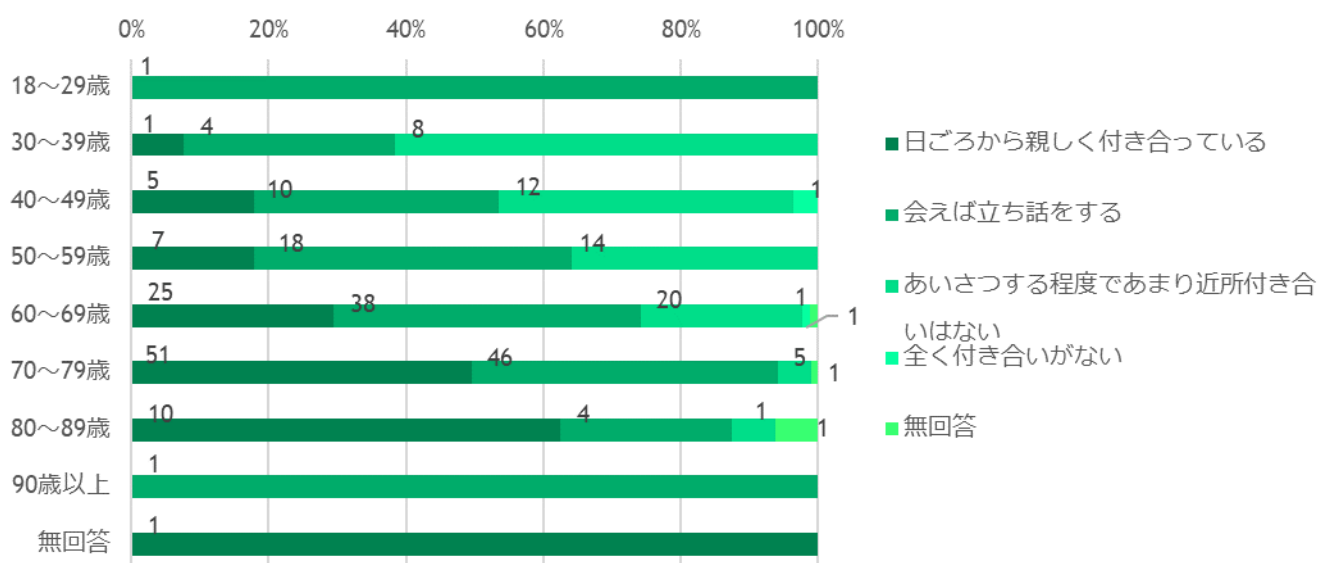


年齢別クロス集計を試みたのが、以下の表である。

年齢が上がるほど、親しい付き合いをしている割合が高くなる。逆に、年齢が下がるにつれ、親しい付き合いをしている割合が減り、あいさつ程度の割合が増える。

会えば立ち話をする程度の割合は各世代あまり変わらないが、30～40歳代は30%台、50～70歳代は40～45%程度となっている。

	日ごろから親しく付き合っている	会えば立ち話をする	あいさつする程度であり近所付き合いはない	全く付き合いがない	無回答	計
18～29歳		1				1
30～39歳	1	4	8			13
40～49歳	5	10	12	1		28
50～59歳	7	18	14			39
60～69歳	25	38	20	1	1	85
70～79歳	51	46	5		1	103
80～89歳	10	4	1		1	16
90歳以上		1				1
無回答	1					1
計	100	122	60	2	3	287



(問8で「3. あいさつする程度であり近所付き合いはない」「4. 全く付き合いがない」と答えた方のみ)

問8-1 近所付き合いをしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

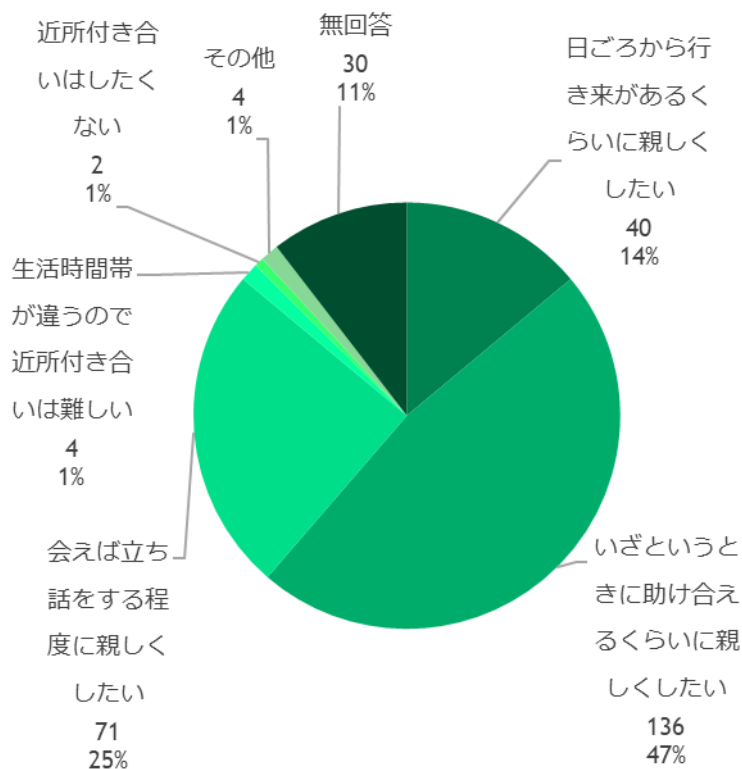
(n=62)	回答	割合
仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がないため	34	54.84%
近所付き合いはわずらわしいので避けているため	6	9.68%
近所付き合いはしたいが、つい消極的になってしまうため	6	9.68%
ふだん留守の家が多く、近所付き合いのほとんどない地域であるため	16	25.81%
年齢や家族構成に共通するところがないため	16	25.81%
その他	4	6.45%
無回答	1	1.61%

その他：区の活動がないので参加の機会（知り合う機会）がない，相手も同様に思っているのではないか，特別な理由はない



問9 近所の人と、今後どのような付き合いをしていきたいですか。(1つに○)

	回答	割合
日ごろから行き来があるくらいに親しくしたい	40	13.94%
いざというときに助け合えるくらいに親しくしたい	136	47.39%
会えば立ち話をする程度に親しくしたい	71	24.74%
生活時間帯が違うので近所付き合いは難しい	4	1.39%
近所付き合いはしたくない	2	0.70%
その他	4	1.39%
無回答	30	10.45%
総計	287	



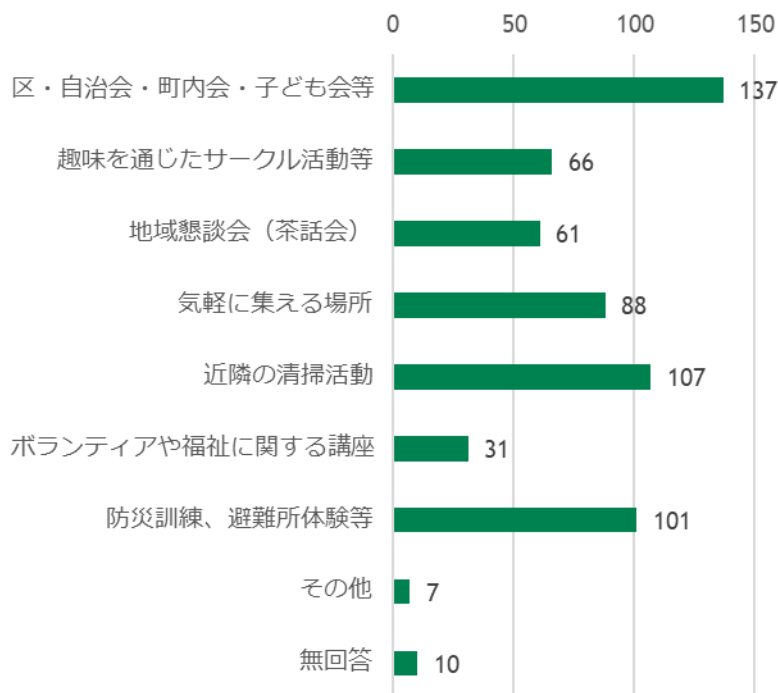
その他：災害や緊急時に助け合える程度で十分，人により全項目あてはまる，現状のままでよい



(問9で「1. 日ごろから行き来があるくらいに親しくしたい」「2. いざというときに助け合えるくらいに親しくしたい」「3. 会えば立ち話をする程度に親しくしたい」と答えた方のみ)

問9-1 近所との付き合いを深めるためのきっかけとして、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

(n=247)	回答	割合
区・自治会・町内会・子ども会等	137	55.47%
趣味を通じたサークル活動等	66	26.72%
地域懇談会(茶話会)	61	24.70%
気軽に集える場所	88	35.63%
近隣の清掃活動	107	43.32%
ボランティアや福祉に関する講座	31	12.55%
防災訓練、避難所体験等	101	40.89%
その他	7	2.83%
無回答	10	4.05%

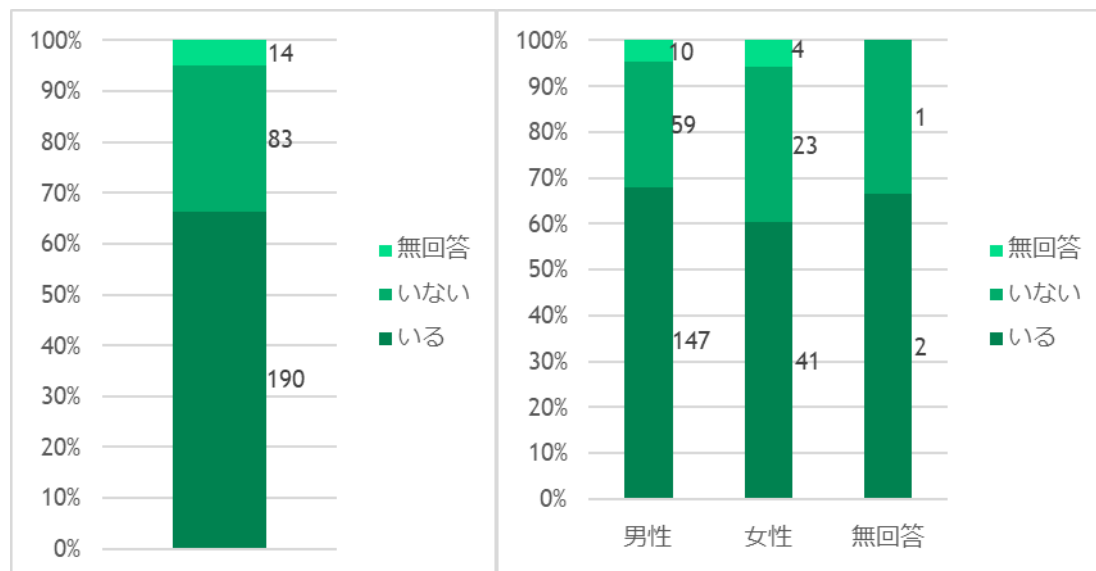


その他：挨拶、会話、お祭りなど地域のイベント、登下校サポーター、近所で会うくらいで充分、立ち話以上は求めている

問10 困ったことがあるとき、近所で気軽に相談できる人はいますか。(1つに○)

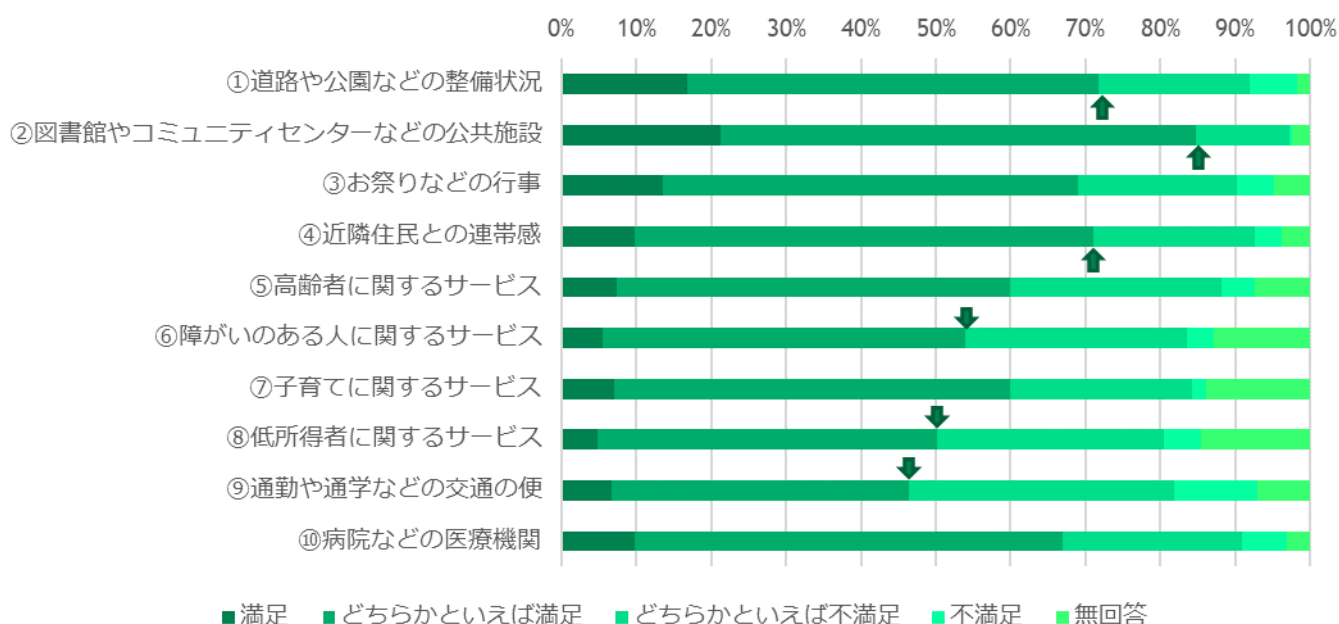
	回答	割合
いる	190	66.20%
いない	83	28.92%
無回答	14	4.88%
総計	287	

	男性	女性	無回答	総計
いる	147	41	2	190
いない	59	23	1	83
無回答	10	4		14
総計	216	68	3	287



問 11 生活に関連する項目の満足度についてお答えください。(それぞれ1つに○)

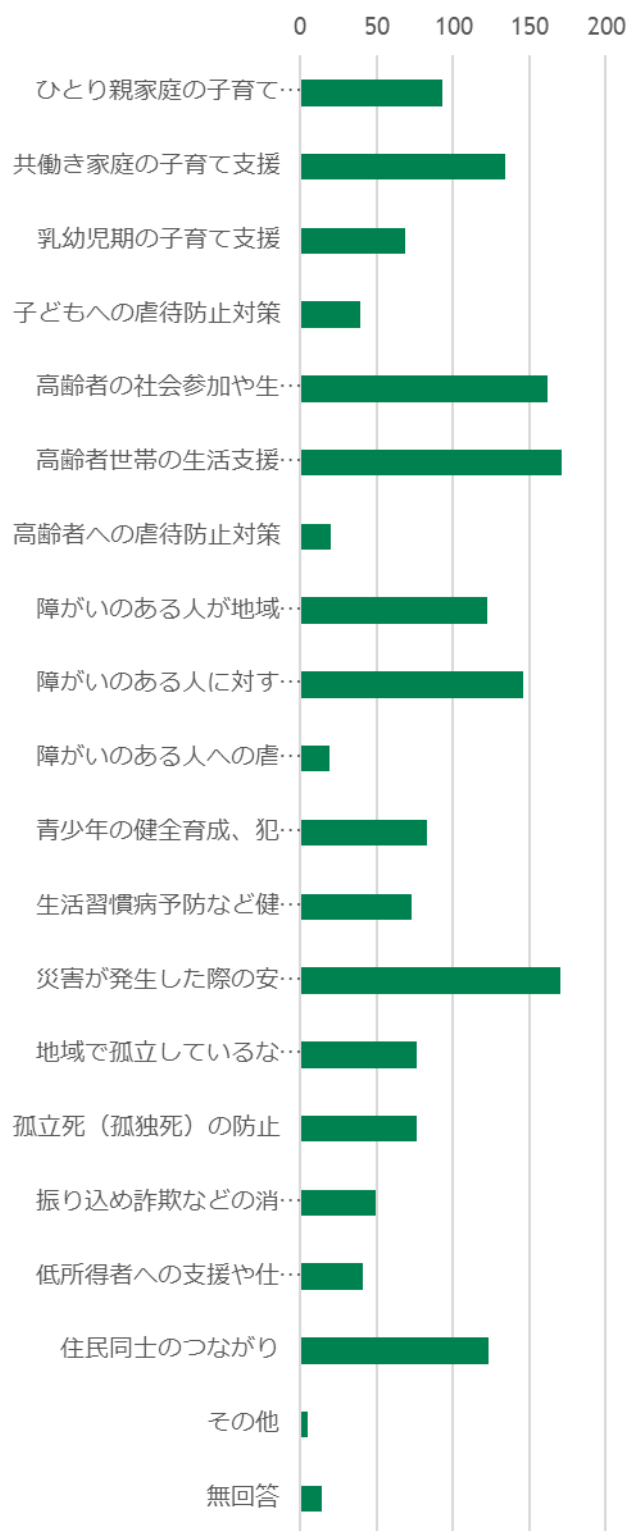
	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満足	不満足	無回答
①道路や公園などの整備状況	48	158	58	18	5
	16.72%	55.05%	20.21%	6.27%	1.74%
②図書館やコミュニティセンターなどの公共施設	61	182	36	1	7
	21.25%	63.41%	12.54%	0.35%	2.44%
③お祭りなどの行事	39	159	61	14	14
	13.59%	55.40%	21.25%	4.88%	4.88%
④近隣住民との連帯感	28	176	62	10	11
	9.76%	61.32%	21.60%	3.48%	3.83%
⑤高齢者に関するサービス	21	151	81	13	21
	7.32%	52.61%	28.22%	4.53%	7.32%
⑥障がいのある人に関するサービス	16	139	85	10	37
	5.57%	48.43%	29.62%	3.48%	12.89%
⑦子育てに関するサービス	20	152	70	5	40
	6.97%	52.96%	24.39%	1.74%	13.94%
⑧低所得者に関するサービス	14	130	87	14	42
	4.88%	45.30%	30.31%	4.88%	14.63%
⑨通勤や通学などの交通の便	19	114	102	32	20
	6.62%	39.72%	35.54%	11.15%	6.97%
⑩病院などの医療機関	28	164	69	17	9
	9.76%	57.14%	24.04%	5.92%	3.14%



満足度が高いのは、公共施設、道路や公園、近隣住民との連帯感。特に、公共施設の比較的満足の人（満足＋どちらかといえば満足）の割合は80%超（上グラフ中、比較的満足の境界を矢印で示している。）。満足度が低いのは、交通の便、低所得者や障がい者向けのサービス。交通の便は比較的満足の人の割合が50%を割り込む。

問 12 身近な地域には、どのような課題があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

	回答	割合
ひとり親家庭の子育て支援	93	32.40%
共働き家庭の子育て支援	134	46.69%
乳幼児期の子育て支援	69	24.04%
子どもへの虐待防止対策	39	13.59%
高齢者の社会参加や生きがいづくり	162	56.45%
高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など）	171	59.58%
高齢者への虐待防止対策	20	6.97%
障がいのある人が地域で自立して生活するための支援	122	42.51%
障がいのある人に対する地域の理解、交流の促進	146	50.87%
障がいのある人への虐待防止対策	19	6.62%
青少年の健全育成、犯罪や非行の防止	83	28.92%
生活習慣病予防など健康づくりへの取り組み	73	25.44%
災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動	170	59.23%
地域で孤立しているなどの社会的孤立者への支援	76	26.48%
孤立死（孤独死）の防止	76	26.48%
振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動	49	17.07%
低所得者への支援や仕事に就けない人への就労支援	41	14.29%
住民同士のつながり	123	42.86%
その他	5	1.74%
無回答	14	4.88%



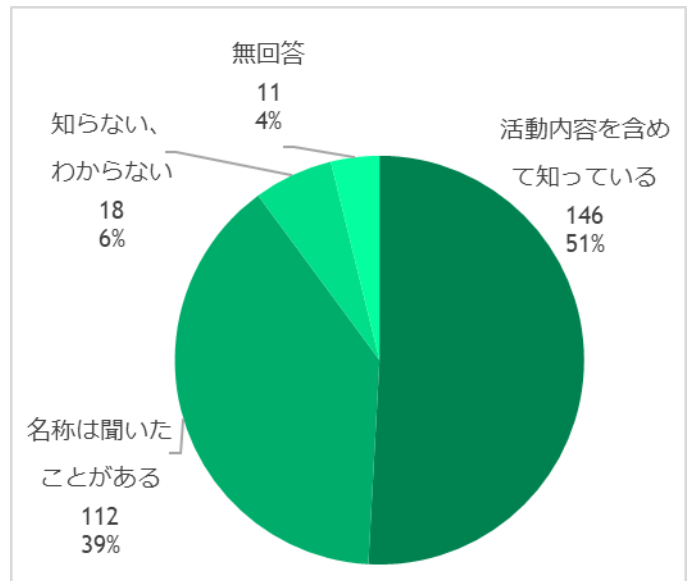
その他：コミュニティ協議会や自治会との連携促進，自治会役員等の不平等感，車両窃盗・空き巣対策

回答の割合が半数以上と比較的多かったのは、高齢者への生きがいづくりや生活支援，障がいがある人への理解促進，災害時の行動や防災活動に関する項目だった。行動困難者への支援と，地域内の他者との関わりについてを課題と考えている人が多く，この点について改善が必要と考えている人が多いとわかる。

民生委員・児童委員についておたずねします。

問 13 民生委員・児童委員をご存知ですか。(1つに○)

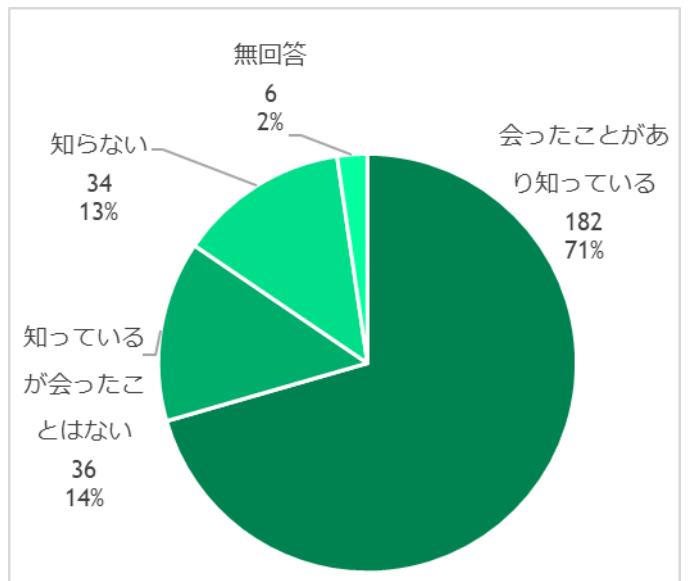
	回答	割合
活動内容を含めて知っている	146	50.87%
名称は聞いたことがある	112	39.02%
知らない、わからない	18	6.27%
無回答	11	3.83%



(問 13 で「1. 役職の内容も含めて知っている」「2. 名称は聞いたことがある」と答えた方のみ)

問 13-1 実際にあなたの地域の民生委員・児童委員をご存知ですか。(1つに○)

(n=258)	回答	割合
会ったことがあり知っている	182	70.54%
知っているが会ったことはない	36	13.95%
知らない	34	13.18%
無回答	6	2.33%

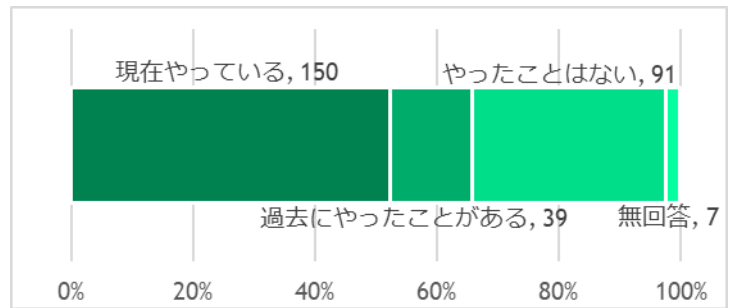


住民自治組織協議会関係者が対象のアンケートであるためか、民児委についての認知度が高く表れている。

地域での活動についておうかがいします。

問 14 ボランティア活動をしていますか。(1つに○)

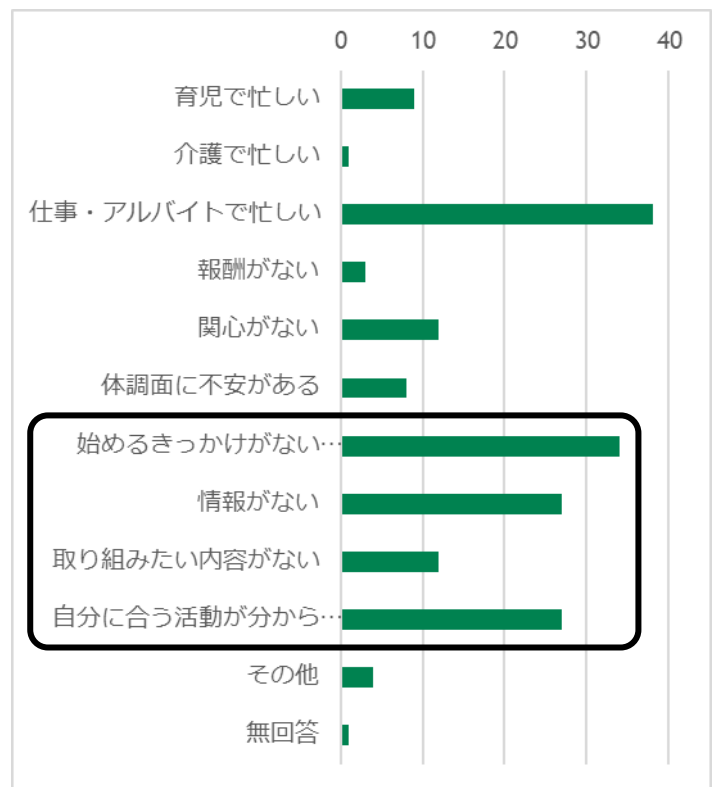
	回答	割合
現在やっている	150	52.26%
過去にやったことがある	39	13.59%
やったことはない	91	31.71%
無回答	7	2.44%



(問 14 で「3. やったことはない」と答えた方のみ)

問 14-1 ボランティア活動に参加していない理由はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

(n=91)	回答	割合
育児で忙しい	9	9.89%
介護で忙しい	1	1.10%
仕事・アルバイトで忙しい	38	41.76%
報酬がない	3	3.30%
関心がない	12	13.19%
体調面に不安がある	8	8.79%
始めるきっかけがない (始め方が分からない)	34	37.36%
情報がない	27	29.67%
取り組みたい内容がない	12	13.19%
自分に合う活動が分からない	27	29.67%
その他	4	4.40%
無回答	1	1.10%

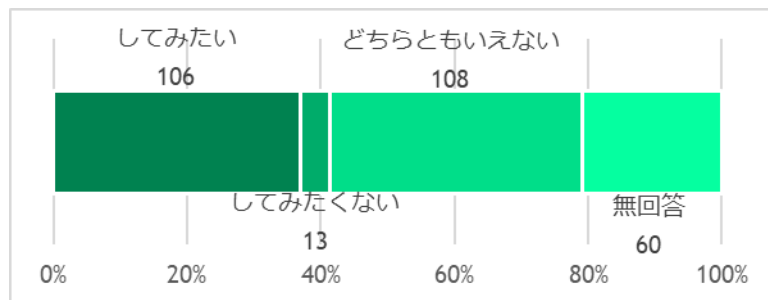


その他：家事で忙しい，高齢，孫育て支援

ボランティア活動への参加には、仕事等で多忙のほか、始め方がわからないという回答が多かった。これを含め、グラフ中黒枠内の各項目の数値が総じて高めに出現している。これを踏まえて考えると、その人に合った活動をマッチングできれば、参加の促進につながるのかもしれない。

問 15 ボランティア活動する機会があればしてみたいですか。(1つに○)

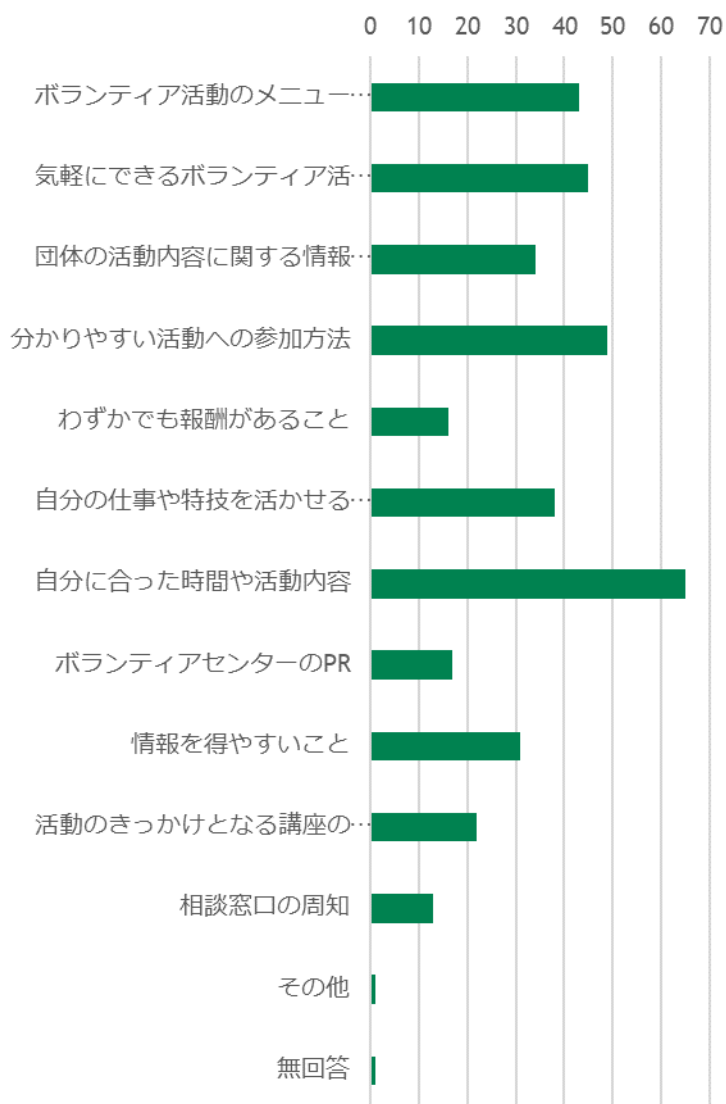
	回答	割合
してみたい	106	36.93%
してみたくない	13	4.53%
どちらともいえない	108	37.63%
無回答	60	20.91%



(問 15 で「1. してみたい」と答えた方のみ)

問 15-1 ボランティア活動を始めるとき、どのような事が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

(n=106)	回答	割合
ボランティア活動のメニューの充実	43	40.57%
気軽にできるボランティア活動体験	45	42.45%
団体の活動内容に関する情報の充実	34	32.08%
分かりやすい活動への参加方法	49	46.23%
わずかでも報酬があること	16	15.09%
自分の仕事や特技を活かせること	38	35.85%
自分に合った時間や活動内容	65	61.32%
ボランティアセンターのPR	17	16.04%
情報を得やすいこと	31	29.25%
活動のきっかけとなる講座の開催	22	20.75%
相談窓口の周知	13	12.26%
その他	1	0.94%
無回答	1	0.94%

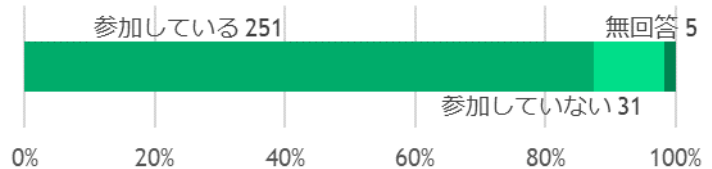


その他：仲間づくり

前ページの間 14-1 でも言及したが、ここでも自分とのマッチングが必要との回答が多い。それに加えて、この設問では参入障壁の低さが重要との意見の回答数が多かった。

問 16 地域の活動や行事に参加していますか。(1つに○)

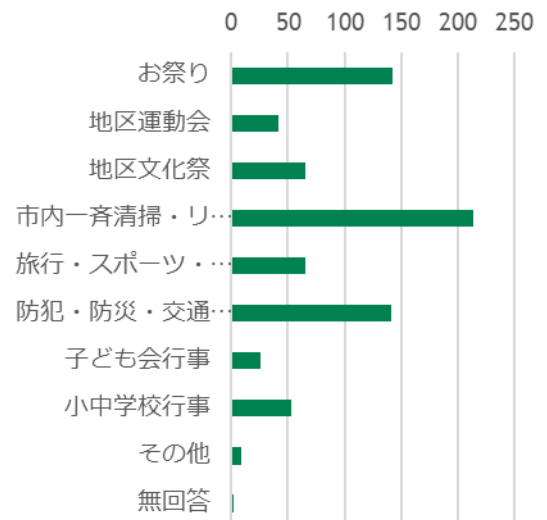
	回答	割合
参加している	251	87.46%
参加していない	31	10.80%
無回答	5	1.74%



(問 16 で「1. 参加している」と答えた方のみ)

問 16-1 地域のどのような活動や行事に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

(n=251)	回答	割合
お祭り	142	56.57%
地区運動会	42	16.73%
地区文化祭	65	25.90%
市内一斉清掃・リサイクル回収	214	85.26%
旅行・スポーツ・レクリエーション	66	26.29%
防犯・防災・交通安全活動	141	56.18%
子ども会行事	26	10.36%
小中学校行事	53	21.12%
その他	9	3.59%
無回答	2	0.80%

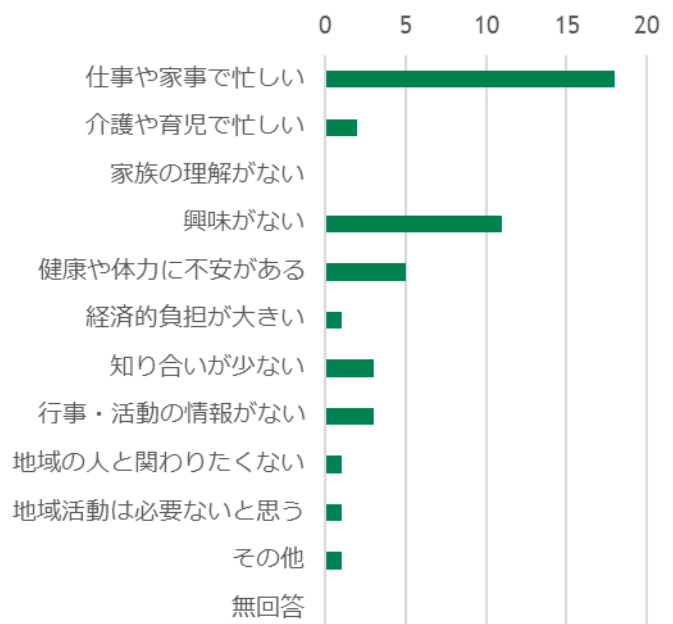


その他：コミセン行事，自治会，長寿会，環境美化活動，青少年育成市民会議，みおざらい

(問 16 で「2. 参加していない」と答えた方のみ)

問 16-2 地域の活動や行事に参加していない理由はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

(n=31)	回答	割合
仕事や家事で忙しい	18	58.06%
介護や育児で忙しい	2	6.45%
家族の理解がない	0	0.00%
興味がない	11	35.48%
健康や体力に不安がある	5	16.13%
経済的負担が大きい	1	3.23%
知り合いが少ない	3	9.68%
行事・活動の情報がない	3	9.68%
地域の人と関わりたくない	1	3.23%
地域活動は必要ないと思う	1	3.23%
その他	1	3.23%
無回答	0	0.00%

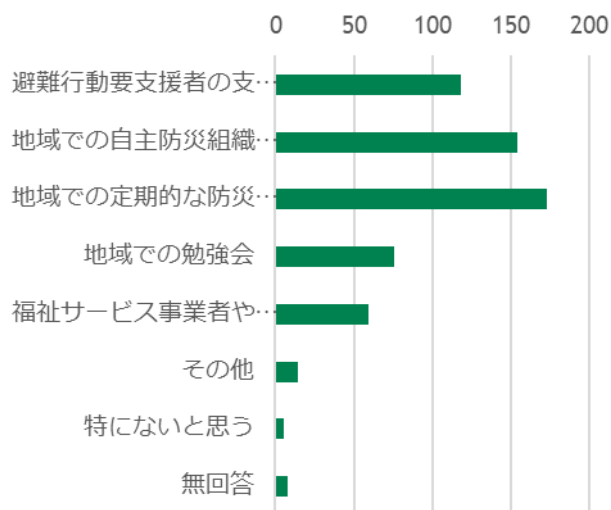


その他：趣味を優先している

地域活動は、ボランティア活動に比べて参加人数が多い。最も多いのは一斉清掃等，次に地域のお祭りと防犯防災交通安全活動が続く。また，不参加の理由は仕事や家事が多忙という回答が多かった。興味がないという回答が多く，活動の意義や魅力を伝える必要がある。

問 17 地震や火災等の災害時に住民同士が協力し合うためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

	回答	割合
避難行動要支援者の支援計画を地域で考える	118	41.11%
地域での自主防災組織づくり	154	53.66%
地域での定期的な防災訓練	173	60.28%
地域での勉強会	76	26.48%
福祉サービス事業者や行政との連携	59	20.56%
その他	14	4.88%
特にないと思う	5	1.74%
無回答	8	2.79%

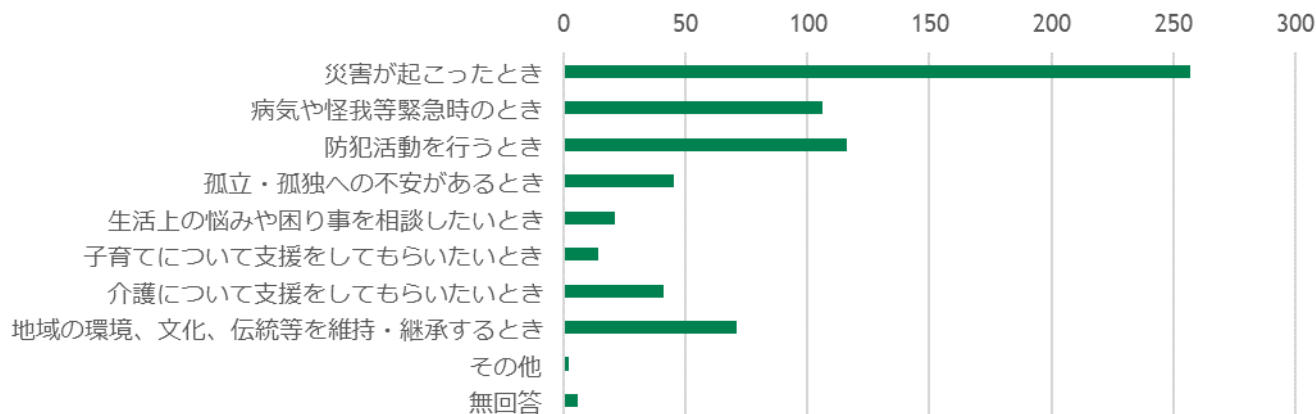


その他：日頃からのお付き合い、どんな人が住んでいるのか知る、仲間づくり、顔合わせの機会を増やす、避難場所の周知徹底

問 18 地域のつながりが必要と感じる時はどのような時ですか。(〇は3つまで)

	回答	割合
災害が起こったとき	257	89.55%
病気や怪我等緊急時のとき	106	36.93%
防犯活動を行うとき	116	40.42%
孤立・孤独への不安があるとき	45	15.68%
生活上の悩みや困り事を相談したいとき	21	7.32%
子育てについて支援をしてもらいたいとき	14	4.88%
介護について支援をしてもらいたいとき	41	14.29%
地域の環境、文化、伝統等を維持・継承するとき	71	24.74%
その他	2	0.70%
無回答	6	2.09%

その他：草やごみが多い



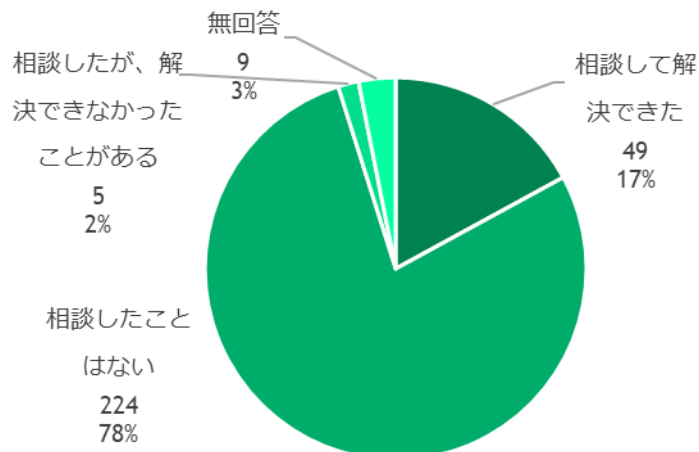
災害時を挙げる人が突出して多く、全体の9割近い人たちが選択している。防犯や負傷なども含めて緊急性の高い項目で数値が高く、それに次いで伝統・文化等の維持・継承が続いている。



龍ヶ崎市の福祉についてお聞きします。

問 19 福祉のことで市に相談した時、解決することができましたか。(1つに○)

	回答	割合
相談して解決できた	49	17.07%
相談したことはない	224	78.05%
相談したが、解決できなかったことがある	5	1.74%
無回答	9	3.14%



(問 19 で「3. 相談したが、解決できなかったことがある」と答えた方のみ)

問 19-1 どのようなことを相談した時に解決できなかったですか。具体的にご記載ください。

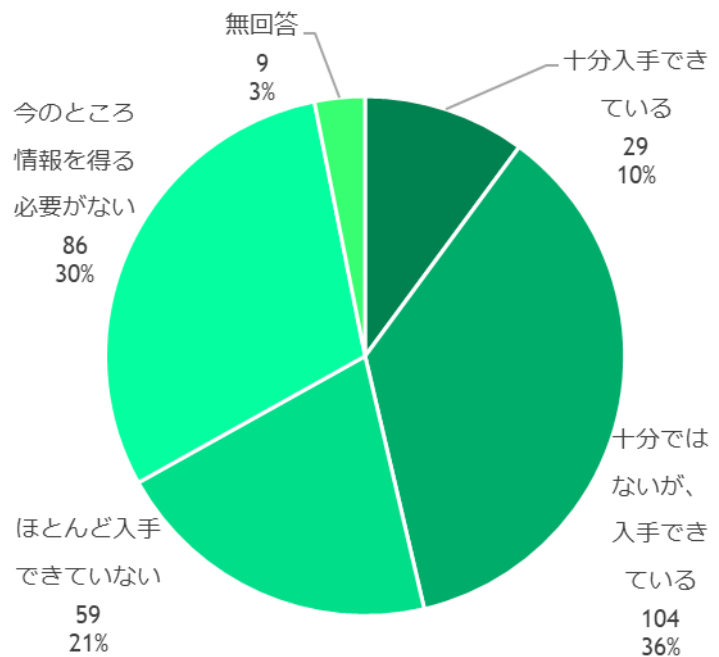
(自由記述)

(n=5)

- ・ 高齢者用の体操会場としてコミセンを優先的に使わせてもらいたいと言ったが、断られた。
- ・ 介護保険を支払っていても、いざ介護認定を受けても、介護医療を受けられないことに不満です。
- ・ 実情に即した制度がなくハードルが高すぎ、結局利用しにくいことになっている。全てに言えると思う。「予算がない」「前例がない」と言って、住民の声を聞いて改善しようとしていない。

問 20 自身に必要な「福祉サービス」の情報をどの程度入手できているとお考えですか。(1つに○)

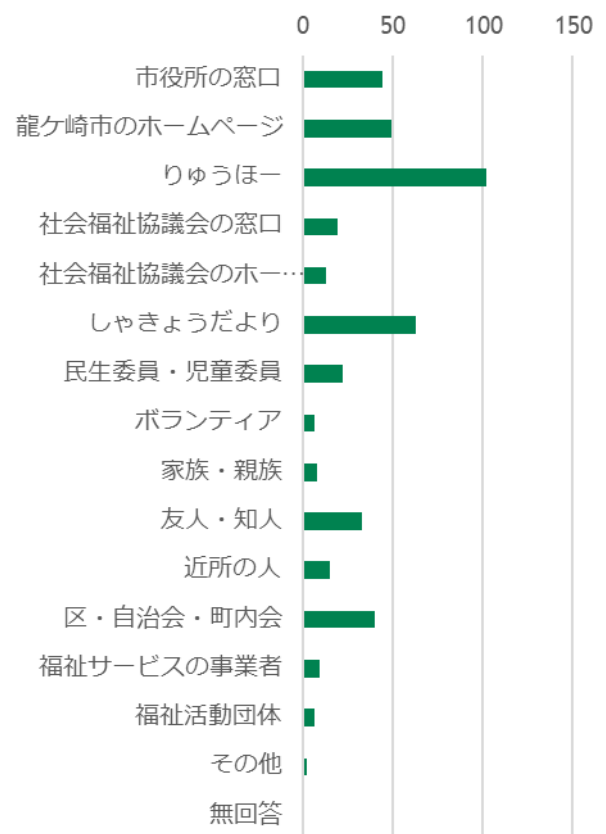
	回答	割合
十分入手できている	29	10.10%
十分ではないが、入手できている	104	36.24%
ほとんど入手できていない	59	20.56%
今のところ情報を得る必要がない	86	29.97%
無回答	9	3.14%



(問 20 で「1. 十分入手できている」「2. 十分ではないが、入手できている」と答えた方のみ)

問 20-1 龍ヶ崎市の福祉についての情報はどこから手に入れますか。(あてはまるものすべてに○)

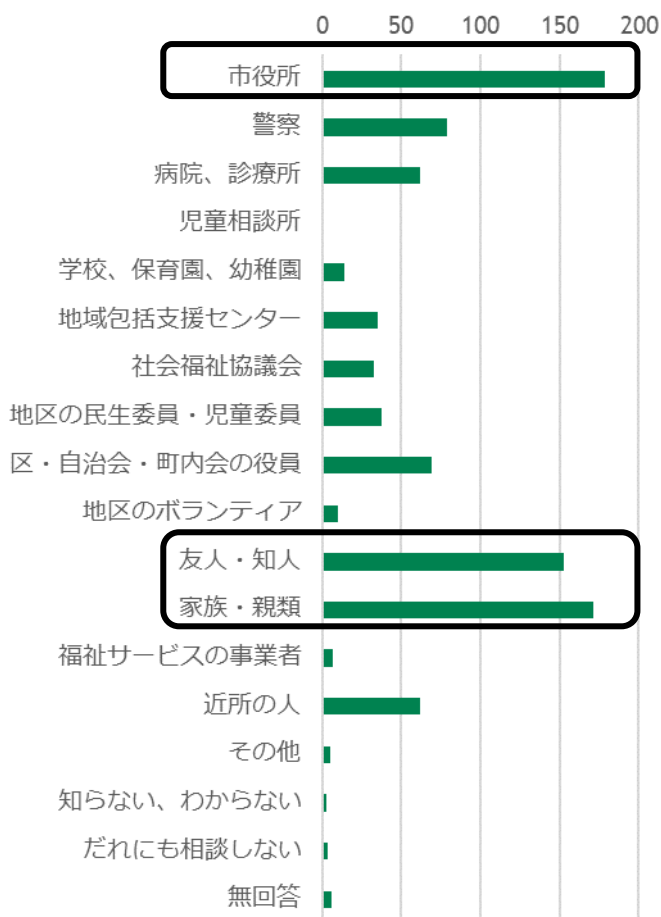
(n=133)	回答	割合
市役所の窓口	44	33.08%
龍ヶ崎市のホームページ	49	36.84%
りゅうほー	102	76.69%
社会福祉協議会の窓口	19	14.29%
社会福祉協議会のホームページ	13	9.77%
しゃきょうだより	63	47.37%
民生委員・児童委員	22	16.54%
ボランティア	6	4.51%
家族・親族	8	6.02%
友人・知人	33	24.81%
近所の人	15	11.28%
区・自治会・町内会	40	30.08%
福祉サービスの事業者	9	6.77%
福祉活動団体	6	4.51%
その他	2	1.50%
無回答	0	0.00%



その他：会社，病院

問 21 日常生活で困ったことがあった場合、どこに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

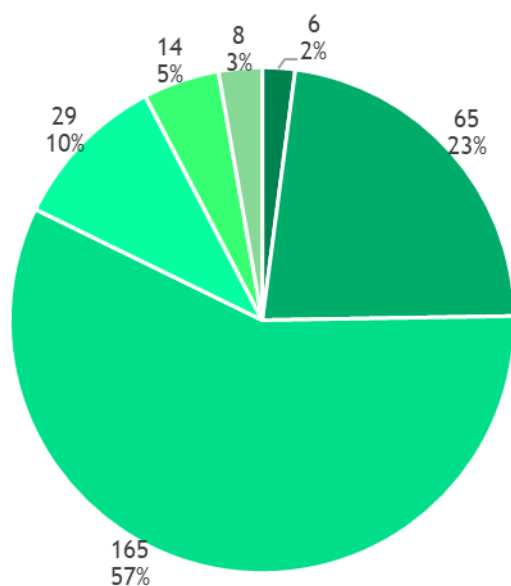
	回答	割合
市役所	179	62.37%
警察	79	27.53%
病院、診療所	62	21.60%
児童相談所	0	0.00%
学校、保育園、幼稚園	14	4.88%
地域包括支援センター	35	12.20%
社会福祉協議会	33	11.50%
地区の民生委員・児童委員	38	13.24%
区・自治会・町内会の役員	69	24.04%
地区のボランティア	10	3.48%
友人・知人	153	53.31%
家族・親類	171	59.58%
福祉サービスの事業者	7	2.44%
近所の人	62	21.60%
その他	5	1.74%
知らない、わからない	3	1.05%
だれにも相談しない	4	1.39%
無回答	6	2.09%



その他：インターネットで検索して調べる，水利管理者，（個人名イニシャル記載）

半数以上の回答があった市役所，家族・親類，友人・知人の3項目が突出している。

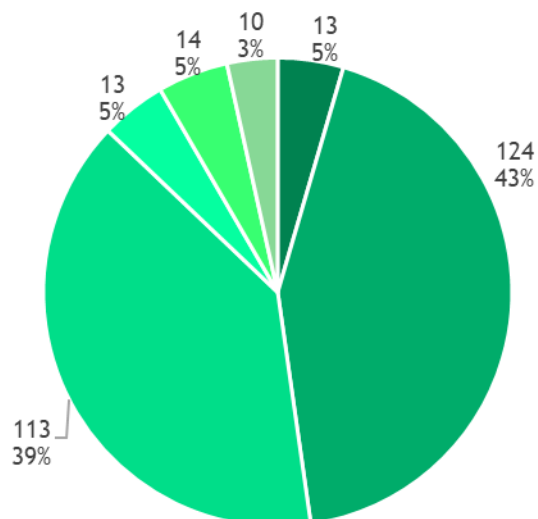
問 22 福祉のまちづくりに向けた、行政と地域住民の関係について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。（1つに○）



- 福祉への責任は行政にあり、住民は特に協力することはない
- 行政だけで解決できない問題については、住民同士が協力して取り組むべきである
- 福祉の問題についても、行政と住民が協働して、取り組むべきである
- 家庭や地域での助け合いが基本で、できない場合に行政が取り組むべきである
- わからない
- 無回答

約6割が、行政と住民が協働すべきと回答している。福祉は行政だけでやるべきだという考え方の回答は、全体の2%となっている。

問 23 「福祉」を充実させることと、その財源となる税金などの負担について、あなたのお考えに最も近いものは次のどの意見ですか。(1つに○)



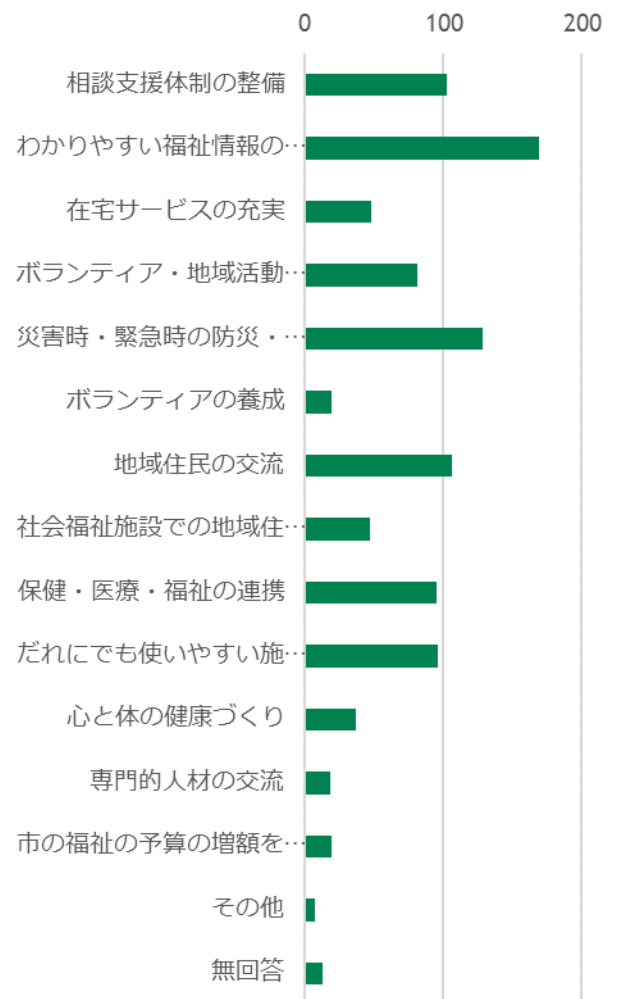
- 福祉の充実のために、負担が増えるのは当然だと思う
- 福祉の充実のために、負担が増えるのはやむを得ない
- 負担は現状程度にして、住民や民間の協力により福祉の充実を図るべきである
- 負担が増えるのなら、今以上に福祉の充実を図る必要はない
- その他
- 無回答

- その他：
- ・ 予算の使い方を見直して適正な支出に努める
  - ・ 他の公共事業を縮減し福祉を充実させる
  - ・ 市職員の給与を削減して捻出する
  - ・ 正しい使われ方ならよいが間違ったところにお金が流れていることに不満
  - ・ 負担増は当然だが適正な税支出が優先
  - ・ 予算支出の見える化が進まないと言負担増は認めない
  - ・ 増税せず受益者負担を上げる
  - ・ 受益者負担はある程度止むを得ない
  - ・ 税負担と福祉の充実の関係が不明なので回答できない

「負担増はやむを得ない」「税負担を変えずに住民等の協力で補填する」がそれぞれ約4割の回答となっている。現在の税金と行政サービスの総量からみて、当事者による費用や介助等労働の負担については比較的容認と考える人が多い。

問 24 今後、龍ヶ崎市で福祉のまちづくりを進めるためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は5つまで)

	回答	割合
相談支援体制の整備	103	35.89%
わかりやすい福祉情報の提供	169	58.89%
在宅サービスの充実	48	16.72%
ボランティア・地域活動による生きがいづくり	81	28.22%
災害時・緊急時の防災・安全対策の充実	128	44.60%
ボランティアの養成	19	6.62%
地域住民の交流	106	36.93%
社会福祉施設での地域住民との交流	47	16.38%
保健・医療・福祉の連携	95	33.10%
だれにでも使いやすい施設、まちづくり	96	33.45%
心と体の健康づくり	37	12.89%
専門的人材の交流	18	6.27%
市の福祉の予算の増額を図ること	19	6.62%
その他	7	2.44%
無回答	13	4.53%

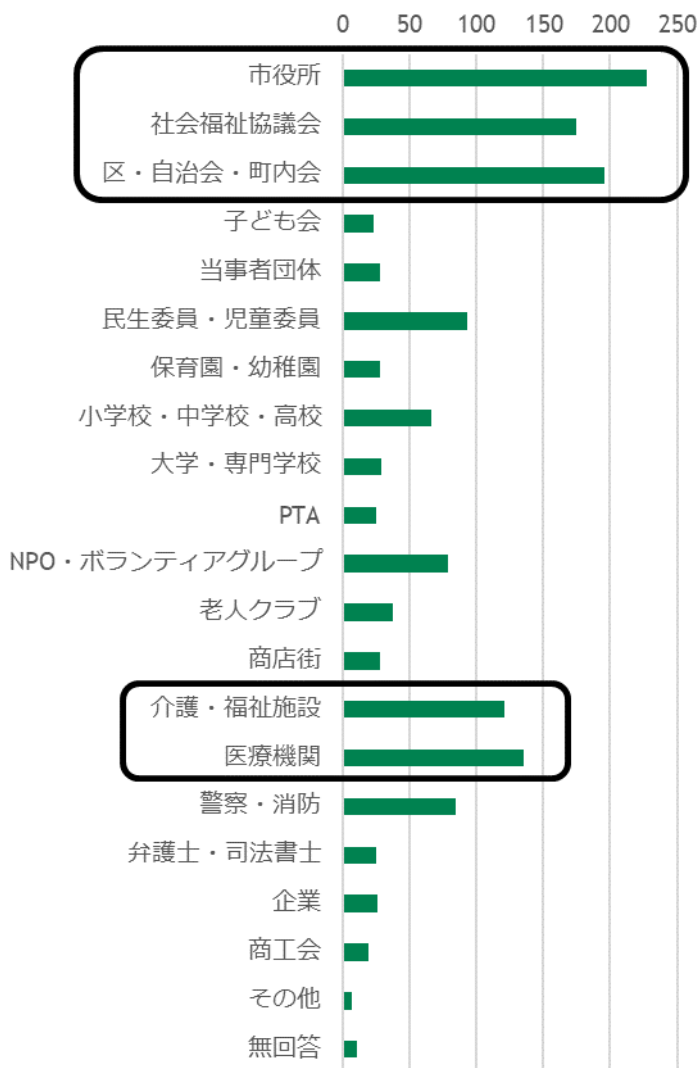


その他：高齢者雇用の充実，地域の居場所づくり，コミュニティセンターの役割，断らない相談窓口の設置・充実，青少年育成，過疎地への支援

情報提供を重要視する回答が多かった。情報社会において，膨大な量の様々な情報の中から必要な情報が適切に入手できる環境やしくみを求める人が多いのかもしれない。

問 25 地域福祉活動を促進するために、どのような機関とのネットワーク形成が必要と  
 思いますか。(あてはまるものすべてに○)

	回答	割合
市役所	227	79.09%
社会福祉協議会	175	60.98%
区・自治会・町内会	196	68.29%
子ども会	23	8.01%
当事者団体	28	9.76%
民生委員・児童委員	93	32.40%
保育園・幼稚園	28	9.76%
小学校・中学校・高校	66	23.00%
大学・専門学校	29	10.10%
PTA	25	8.71%
NPO・ボランティアグループ	79	27.53%
老人クラブ	38	13.24%
商店街	28	9.76%
介護・福祉施設	121	42.16%
医療機関	135	47.04%
警察・消防	85	29.62%
弁護士・司法書士	25	8.71%
企業	26	9.06%
商工会	20	6.97%
その他	7	2.44%
無回答	11	3.83%

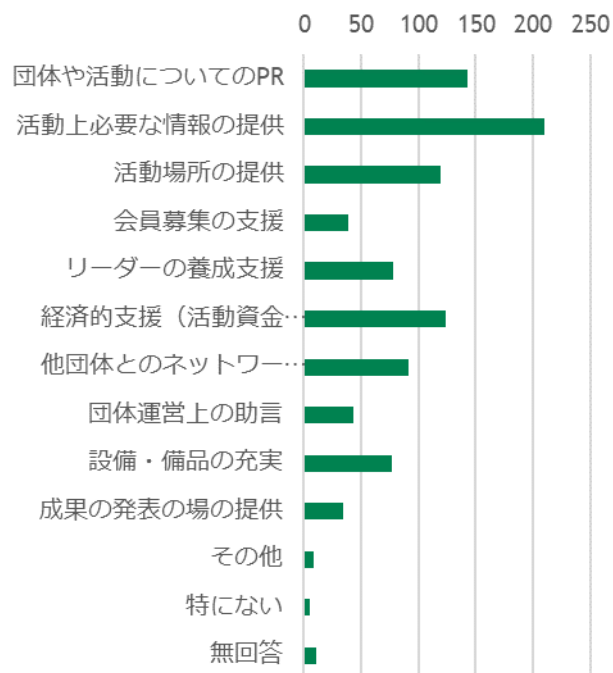


その他：地域コミュニティ協議会，まちづくり協議会，青少年育成市民会議，地域包括支援センター，もう遅い

福祉や医療に従事する機関や情報を持っている機関，もしくは地域機関（区・自治会・町内会）に回答が集まった。

問 26 これからの地域福祉を担う主体として、区、自治会、町内会、NPO や企業（事業所等）などがありますが、それら団体・組織が活動をしていく上で、市や社会福祉協議会はどのように支援していけばいいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

	回答	割合
団体や活動についてのPR	143	49.83%
活動上必要な情報の提供	210	73.17%
活動場所の提供	119	41.46%
会員募集の支援	39	13.59%
リーダーの養成支援	78	27.18%
経済的支援（活動資金など）	124	43.21%
他団体とのネットワーク化	91	31.71%
団体運営上の助言	43	14.98%
設備・備品の充実	77	26.83%
成果の発表の場の提供	34	11.85%
その他	8	2.79%
特にない	5	1.74%
無回答	11	3.83%

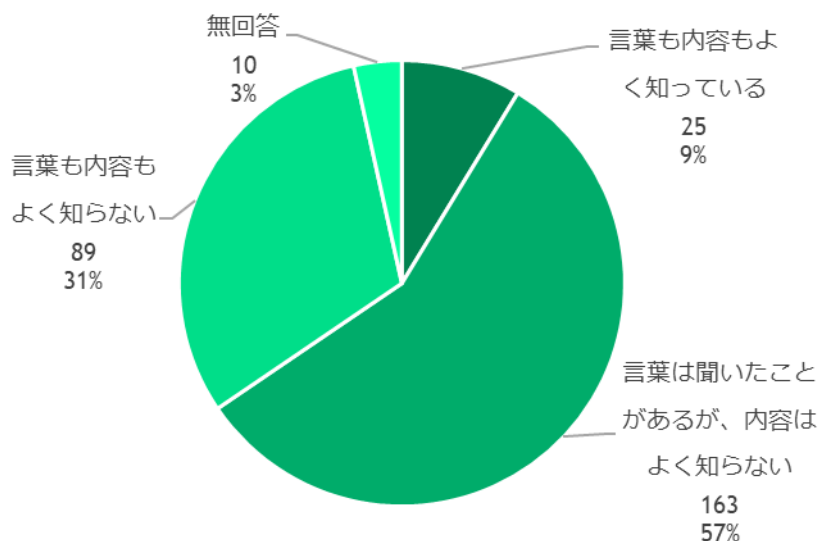


その他：立ち上げ時の支援，情報の共有，市民の高齢化対応，人材の確保・育成，地域包括支援センターの設置，コミセン職員の応援，無駄な事業を減らして必要な財源に充てる，利用者からお金をいただいている福祉系団体への支援

市や社会福祉協議会に対しては，実質的な活動よりも後方支援的活動（情報提供，広報活動，活動場所や資金などの支援）を求める声が多い。

**「生活困窮者自立支援法（制度）」についておたずねします。**

問 27 あなたは平成27年4月1日に施行した「生活困窮者自立支援法」をご存知ですか。（1つに○）



問 28 生活困窮者に対する支援として、特にどのような取り組みが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

	回答	割合
支援の計画をつくり、関係機関との調整などを行う（自立相談支援事業）	168	58.54%
離職により住まいを失うか、失うおそれの高い人に家賃の支援を行う（住居確保給付金）	104	36.24%
就労に必要な訓練を段階的に行う（就労準備支援事業）	138	48.08%
住居を持たない人に、一定期間、宿泊場所や衣食の提供等を行う（一時生活支援事業）	119	41.46%
家計に関する相談や家計管理の指導、貸付けのあっせん等を行う（家計相談支援事業）	73	25.44%
生活困窮家庭の子どもに対する学習支援を行う（学習支援事業）	178	62.02%
その他	10	3.48%
無回答	16	5.57%

その他：現物支給する，子ども食堂など食事の提供支援，仕事のあっせん，公的サービスの従事者として雇用する，難しい，当事者に聞いた方がいい

今回のアンケートでは，生活や住居などの生きていくための支援に比べ，学習や就労などの支援を挙げる項目に回答が集まった。

**「権利擁護」についておたずねします。**

問 29 高齢者、障がい者、子どもへの虐待に気づいた時、あなたはどのように対応しますか。(あてはまるものすべてに○)

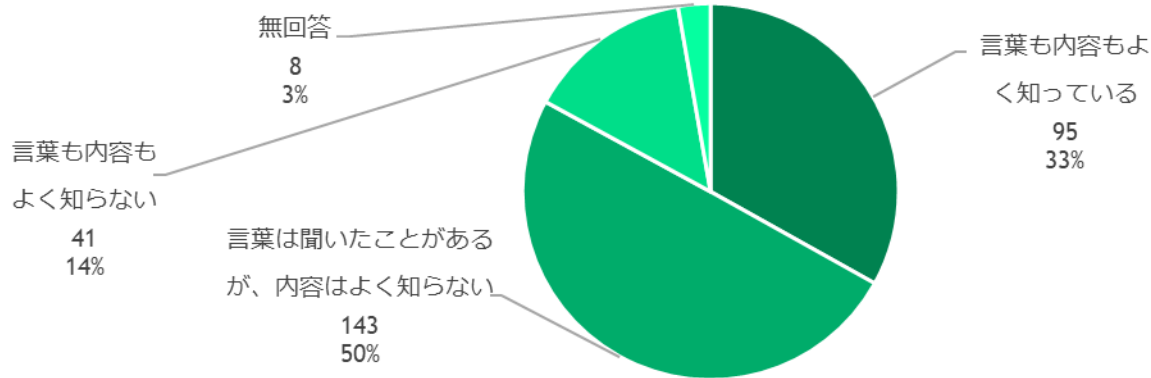
	回答	割合
市役所に相談する	188	65.51%
警察に相談する	177	61.67%
児童相談所などに相談する	101	35.19%
隣近所や知り合いに相談する	82	28.57%
民生委員・児童委員に相談する	107	37.28%
本人や保護者に声をかける	39	13.59%
特に何もしない、わからない	5	1.74%
その他	2	0.70%
無回答	5	1.74%



その他：地域の小中学校，行政の役割だと思うが現状では無力

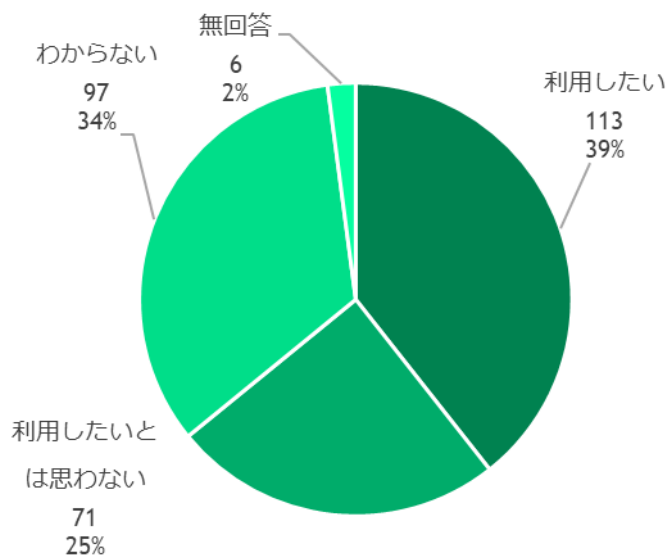


問 30 あなたは、「成年後見制度」をご存知ですか。(1つに○)



問 31 あなた自身や親族が、認知症等により判断が十分にできなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

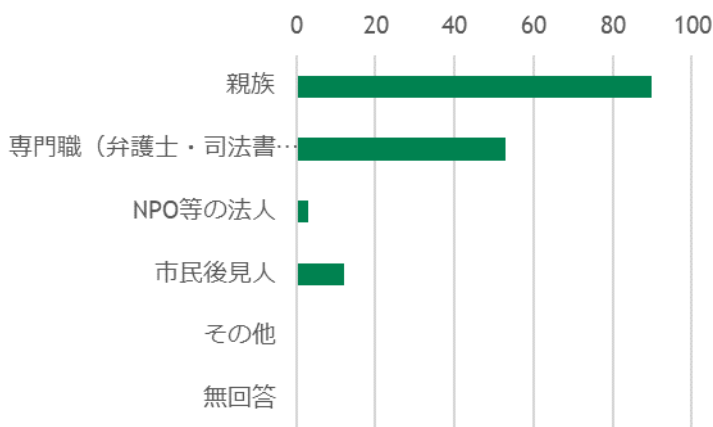
	回答	割合
利用したい	113	39.37%
利用したいとは思わない	71	24.74%
わからない	97	33.80%
無回答	6	2.09%



(問 31 で「1. 利用したい」と答えた方のみ)

問 31-1 成年後見制度を利用することになった場合、後見人は誰になってもらいたいですか。(あてはまるものすべてに○)

(n=113)	回答	割合
親族	90	79.65%
専門職 (弁護士・司法書士・社会福祉士)	53	46.90%
NPO等の法人	3	2.65%
市民後見人	12	10.62%
その他	0	0.00%
無回答	0	0.00%



(問 31 で「2. 利用したいとは思わない」と答えた方のみ)

問 31-2 「利用したいとは思わない」と答えた理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

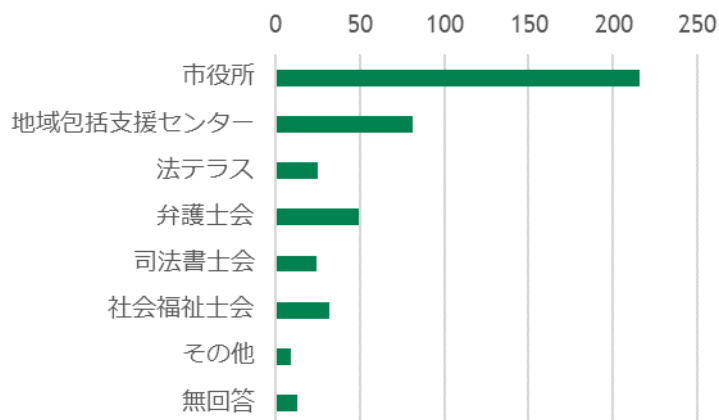
(n=71)	回答	割合
後見人でなくても家族がいるから	64	90.14%
どこに相談してよいかわからないから	1	1.41%
手続きの方法がよくわからないから	3	4.23%
費用がどれくらいかかるか不安だから	7	9.86%
他人(家族含む)に財産等を任せることに不安があるから	14	19.72%
その他	1	1.41%
無回答	1	1.41%

その他：やってみようと思うが資料が多く大変、結局何もせずの状況で家族で判断、信頼している兄弟を考えた場合相手の資産や個人情報さらけ出されるが、そこまで知りたいとは思わない

「面倒を見る」「管理する」という内容からだろうか、成年後見(に関する内容)は、家族がやるものだと考える人が全体の9割を占めている。また、回答者の約2割が他人に財産管理を任せることに懐疑的だという結果も、注目に値する。

問 32 あなたが成年後見制度について相談するとしたら、どの窓口を利用しますか。(あてはまるものすべてに○)

	回答	割合
市役所	216	75.26%
地域包括支援センター	81	28.22%
法テラス	25	8.71%
弁護士会	49	17.07%
司法書士会	24	8.36%
社会福祉士会	32	11.15%
その他	9	3.14%
無回答	13	4.53%



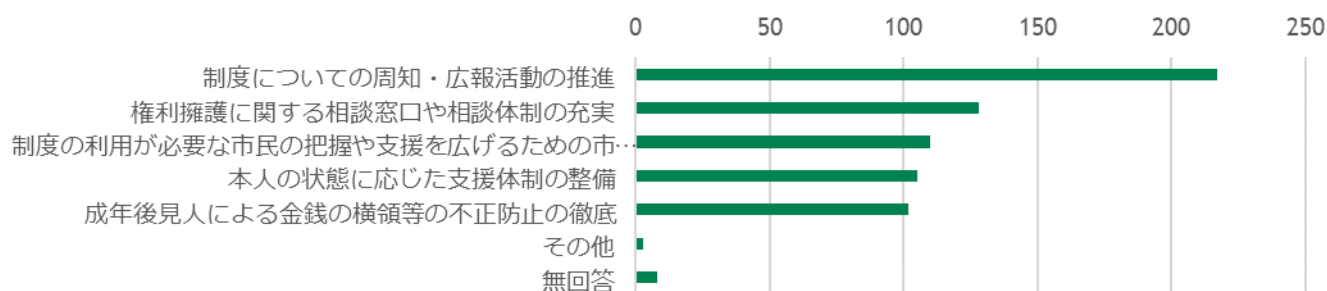
その他：家族、市役所に聞いたあと適切なところに聞く、わからない、知らない、考えたことはない、する気がないので相談しない

成年後見制度については、回答が難しかったとの意見を複数聞いている。この設問は制度利用を望まない人にも問うものであるため、その他で回答があった「わからない」「相談しない(するつもりはない)」の選択肢を設ける必要があったと思われる。

問 33 今後、成年後見制度の利用促進・充実を図っていくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

	回答	割合
制度についての周知・広報活動の推進	217	75.61%
権利擁護に関する相談窓口や相談体制の充実	128	44.60%
制度の利用が必要な市民の把握や支援を広げるための市や医療・福祉・法律など様々な分野の連携	110	38.33%
本人の状態に応じた支援体制の整備	105	36.59%
成年後見人による金銭の横領等の不正防止の徹底	102	35.54%
その他	3	1.05%
無回答	8	2.79%

その他：後見人の人柄などによる客観的適性判断



相談や支援の前に、制度自体の理解を促進する必要があるとの考え方からか、周知・広報を選ぶ人が多かった。ただし、全体的に数値が高く、全体的に促進策を講じることが求められていることがうかがえる。

問 34 あなたは、「日常生活自立支援事業」をご存知ですか。(1つに○)

	回答	割合
言葉も内容もよく知っている	23	8.01%
言葉は聞いたことがあるが、内容はよく知らない	129	44.95%
言葉も内容もよく知らない	126	43.90%
無回答	9	3.14%

問 35 あなたは、支援が必要になったときには、日常生活自立支援事業を利用したいと思いますか。(1つに○)

	回答	割合
必要になれば利用したい	171	59.58%
利用したいとは思わない	17	5.92%
わからない	94	32.75%
無回答	5	1.74%

問 34 から、内容も知っている人の割合が8%と、まだ制度自体の認知度が低いことがわかる。また、問 35 では約3人に1人がわからないと回答している。制度が身近にない、制度を必要とする状況にない、などの理由が考えられるが、追及するには更なる調査が必要となる。

最後におたずねします。

問 36 龍ヶ崎市を「安心して暮らせるまち」にするには、何が重要だと思いますか。自由にご記入ください。(自由記述)

防犯防災対策強化。  
認知症や知的障がい者対策強化。  
共働き家庭の育児支援強化。  
自然環境保護委。  
カーボンニュートラル対策強化。  
新旧住民のコミュニケーション強化。

行政も市民も真剣に考える。何よりも市民は市役所という機関が身近だと思うので、それぞれ自覚を持ってお互いが信頼できあう関係を築きあげる。

- ・地域活動の活発化を図るとともに、定期的な防災・防犯訓練を実施する。
- ・高齢者が気軽に社会参加出来る組織づくり。
- ・地域での防犯パトロールや警察による見回りパトロール。

・警察のパトロール、取り締まりが少なすぎます。いまだに暴走族のようなうるさいバイク等が走っています。積極的なパトロール、職質、摘発をすべき。  
・副市長の悪事、社会福祉協議会理事の悪事など言語道断です。幹部にふさわしい人選をすることが必要不可欠。  
・植栽伐採、雑草対策。横断歩道、白線がかすれて見えない箇所が多いです。早急に補修を。

全ての世代の住民が利便性を得られること。  
高齢者の限定はしない方がよい。  
周辺市町との広域的なつながり。バス（コミュニティバス）の周辺市町への広域乗入れ。住所地从ら牛久市内を利用することが多いが、市境を越えての移動は自家用車以外は難しい。自家用車を用いない異動の実現を求めたい。

- ・防犯・防災の充実
- ・地域・行政・学校との連携
- ・若い人への研修強化

- ・住民のコミュニケーションを密にすること。
- ・災害時の備えがしっかりしていること。
- ・子どもに対して安全・安心して遊ばせることができること。

子ども、高齢者が生きやすい生活を支援できる町になってほしい。  
近隣との交流が昔みたいに深くなく、あいさつ程度しかしたことがない。  
自治会に入っているが、どのような人たちが暮らしているのかもあまり分かっていないので、もっと交流しやすくなればよいと思う。

何でも困っている市民を助けられる行政の対応が必要なのだが、体制も法的根拠もない。とりあえず「何でも相談可（課）」でもあれば、困っている市民の情報は入るのでは。もちろん、ネットでの対応でもよい。

## 防犯活動・警察のパトロールの強化

龍ヶ崎市駅は送迎自家用車で二重・三重の停車で危ないです。タクシーの待っている場所等を整理して送迎自家用車がスムーズにできるようにロータリーをつくり変えていただきたいです。

(欄外に) アンケート項目が多い。おたずねも判断に迷うたずねかた。

長山CCは利用者が多く、職員も忙しそう。長山CCは地域福祉の核にするのであれば、利用者の多寡に応じた市から支援体制の強化が必要と思われる。軽いボランティア活動はできるが、その分野の経験に乏しい場合、ストレス負担になるなどのボランティア活動は出来ない。リーダーとリーダーを支える事務局体制がないと長続きしない。

## 災害時の対応の充実

未だ水田耕作地が多く残っている龍ヶ崎市において、後継者がいるかいないかはわかりませんが、後継者のいなくなる恐れのある耕作地(水田を含)を借上げ、農業法人を立ち上げ、また一方で茨城大学農学部や県内の農業高校と連携して、ブランド米あるいはブランド農作物(龍ヶ崎トマトのような)生産を図り、国内・外(特に海外に向け)「安心・安全かつ美味しい」農作物を売りこんでいく。農産物は人間が生きる為に必要なものなので、「安心・安全かつ美味しい」農産物であれば販路を開拓出来るのではないだろうか!?「農業を通して人を育てる」町に出来ないだろうか!?

基本は隣近所の付き合いです。最近はどうのような人が居るのかわからない。一斉清掃は大切な行事となっています。町内会を如何に活性化させるかが大切です。市では町内会活性化のルールづくりに取り組んでいただきたい。(例)月1回の役員会を開催し、町内の現状把握を

現在は妻と2人。近所に子ども達も暮らしていて、緊急の時は「大丈夫」とのんびりしています。ただ、自分が寝たきりや認知症になってしまった場合、子ども達に負担がかからない程度の施設が簡単に利用できれば…と思っています。

・何か一つ解らない事があって、市に問い合わせをしても、それは何課これは何課と別れています。高齢になると1つ1つ何回も説明するのが大変です。病院の総合内科のように1回説明すれば事が進むようになってくれれば良いと思います。

・いつでもだれでも気軽に行ったり来たりして集まれる場所があると良いと思います。もしかして、もうあるとしたら、もう少し宣伝して下さい。

ごみの出し方について、各地区集積所への収集日を徹底させる。

・龍ヶ崎市に住んで、本当に安心、安全で明るい暮らしやすい街だ、という事をもっとアピールして、更に、努力・工夫を積極的に行い発展させてほしい。

・例えば、防災無線を更に活用して地震の速報や状況のお知らせを。

・市内巡回バスの利用アピール、メリット等(まだまだ利用者が少ないと聞く)

・龍ヶ崎市の特産物や観光スポットを内外にもっとアピールして、その時々々の催し行事やお知らせを。

市、社会福祉団体と警察署との連携、情報の共有により事前に異常を把握し、早めの対応、行動が不可欠と思料。

町内会も長寿会も役員になる人がいない。このような状況ではそれぞれの団体の活動の活性化は望めない。市役所頼みにならざるをえなくなっている。諸団体が自己の枠をこえて、意見交換等できる体制づくりをお願いしたい。(1年交代の役員ではこれは望めない。自分の団体を理解するのがせいぜいだ。)

- 1、若者に活気と勇気と換気を。
- 2、大人が親が子供に迷惑掛けるから掛けたくないという言葉が耳にしますが、他人だったら良いのですかと聞こえます。親を見るから親と暮らす龍ヶ崎に？(三世代は良いです。)

龍ヶ崎に在住して48年余、大きな災害もなく、近所とのトラブルもなく、常に住み良い街であると思っています。退職して10年余が経過し、現在、地域の長寿会、防犯〇〇に入会し、出来る限り人との交わりを持ち、少しでも人の為、又社会貢献が出来る様常に前向きな気持ちを持って活動していきたいと思っています。年を重ねる度に、体力の低下、能力の低下を感じますが、気持ちは“青春”の気持ちを持ち何事にも歓喜と興味を持って、事に処して行きたいと思っています。

☆旧市街地は、以前の活気、賑いがなく、散歩していても不安な思い、気持ちになります。何度か市に提案をさせて頂きましたが、アイエフ跡地の再活用法、にぎわい広場の友好的活用法、旧市街閉店後の再活用法について、人が集まり、活動出来る対処法について、検討頂きたく、提案させて頂きます。

現在民生委員が担当する生活保護対象者対応を民生委員に依存率が高すぎ、それぞれの委員の負担が多すぎ、それに依る委員のなり手が少ないと思われる。他市町村ではケースワーカーが介在部分がほとんどで、龍ヶ崎でもケースワーカーの充実が委員の負担軽減になり、人数の確保も楽になると思われるが。

信頼できる市。(どの組織もトップが最重要) 市民他、緊張感不十分。

介護を受けたり自立支援を受けたりすると社会のお荷物とかやっかいものと言われそうで心苦しい風潮があります。このような考えを打破して行かないと笑顔で暮らせないのではないかと。

問8-1の理由がほとんどだと思います。  
近所付き合いは大事ですが、ここが活発になれば理想的です。

歳を取っても安心安全に暮せる事自分の家で最後まで暮せる事医療機関へ歩いて行ける所  
(近くにかかりつけ医がある事)

制度等を利用した実例を紹介していただけるとわかりやすい。

近所・家族に困った事が生じた時に、どの分野であろうと、相談窓口を一本化を図り、困った人達をたらい回しをさせないで頂きたい。

自動車の盗難が他の自治体に比べて多い様に見えます。  
盗難されやすいまちづくりになっている部分もあると思うので、分析と対策が不足していると考えています。改善をお願いします。

日本の福祉は徐々に向上しているのでしょうか？

以前は、地域包括センターなどなくて、これが出来た事で住民は足を運びやすくなったかと思いますが…。

福祉に限らず、役所の組織は細分化されて数が多く住民からは解りづらい。とにかく、何でも困ったら“ここにいらっしやい”という“かけこみ寺”的窓口が1つあって、そこにはプ口的相談役がいて、困りごとの内容を各担当部署に振り分ける。当事者はそこに行ってもらって解決又はアドバイスを受ける。その方が窓口をたらい廻しにされて解決がスムーズに効率的になされるのではないかと思うのですが…。

役所は住民のためにあるという基本的な自覚をもっているならば、こういう身近な問題から、改善を真剣に取り組んで欲しい。

開かれた窓口があって、常日頃住民の望んでいる事を真摯に受け止める姿勢があれば、アンケートなどに頼らなくても、自ずと何を為すべきか解るはず。

言うはやすし、行うは難し！！ 頑張ってください。

誰にでも「居場所」があるまちづくり

まともな政治家、市、町の公務員が必要  
全て、税金のムダ！

市民どうしのコミュニケーション

インフラの整備

駅名変更や道の駅など市民からの支持がない事業に力を注ぐのをやめ、福祉の充実をはかること。

交通の便を良くする。

公園の整備。

高齢者への対応（市内バリアフリーを増やす）

少子高齢化の時代、私の近所も子供達が少なくなってきました。子育てをする上での環境がやはり有るのではと思います。特に共働きをする時代での保育所等の完備が余りされていないと聞きます。高齢者に関しても、近所には毎年増えています。私共の団地内では、2年前から集会室を利用してのカフェに参加して戴き、互いのコミュニケーションの場を設けています。やはり買物等に不便を来している人が多くいます。利便性の有る乗物が提供されればと思います。

#### 1. 独居老人

独居老人の孤独死を警察官の戸別訪問で初めて知った。ニュータウンでは地域の密着性が低いのは仕方がないが、もっと町内で把握する仕組みと支援が必要だ。特に民生委員の活動が定かではないように見受けられる。

#### 2. 防犯の問題

空き巣が多い。共稼ぎ世帯が多い為か？ 街路灯と同じ様に防犯カメラの設置の公的支援が必要ではないか！！

- ・ いろいろな制度の周知—知らないと活用ができない
- ・ 各組織の連携体制

防犯パトロール（パトカー巡回を含む）をもっと多く  
街を明るく 街灯の増設  
防犯カメラ設置支援の拡大（現行3か所×20万円）をもっと多く  
ガソリンスタンド・コンビニ等の誘致（街が明るくなる様に）  
街路樹の伐採と見直し（隠れる場所が多すぎる）  
防災無線を多く、聞きやすく

- ・災害時に福祉避難所としてトレーラーハウスを活用する等備えが必要と思う
- ・地域住民と小中高生の交流
- ・りゅうほーや広報紙（地区）の活用
- ・社協のPR

防火・防災・福祉に力を入れた行政をする。

福祉に対する市の予算の確保

散歩道の整備

私は佐貫に住んでいます。  
佐貫にありました常陽銀行が竜ヶ崎市の支店に統合になりました。  
佐貫にも今まで通りあってほしいです。  
不便です。

新聞やテレビで目にする戦火に追われる子たち、貧困にあえぐ家族、そして災害に襲われる家々。  
決して豊かな生活ではありません。  
でも当たり前のように安全に暮らせるこの日常は、かけがえのない日々です。今のままでも十分安心して暮らせる街だと思っております。

江川の浄化

徹底した河川の掃除、自然に生い茂った木々の伐採…ここ数年の気象変動の為、日々不安を感じます。

問8で「1」「2」を選び、問9の質問内容はおかしい。  
問14で「1」を選択し、問15の質問はおかしい。  
質問内容を充分考えた上でアンケートを行って欲しい。  
また、時間を掛けて回答して貰うのだから、アンケートの結果を形にして「安心して暮らせるまち」作りを行う事を願う。  
前年同様、アンケートをやって、回答結果を出して終わりというのならば、今後、依頼は受けません。

議会（議員等）が市民の生活等を考慮して頑張ってもらいたい。（改善等）

北文間協議会でも高齢化は例外でなく、運営する役員も成り手不足。5～10年後の見通しが立たないと思う。各地区の協議会も同様と思うのだが、対応が難しい。  
南が丘では、買いもの難民も今後多くなると思われ、移動車等による販売等の検討も必要か？



基本的には、各住民、各自治体がやるべき目標に向かって誠実に実行する事です。

①住民—自分達のやるべき事をやる、できる事をやる

②地域組織（自治会、協議会等）—地域で共通してやるべき事をやる

③行政—主体的考え方を構築し、方針を示し、先頭に立って業務を推進する

※何れも（上記3点）、基本的な考え方ができていないのが現状、残念ながら龍ヶ崎市全体に危機意識が薄い。特に市、議会に猛省をうながす。

あなた達の仕事は何なんですか

各地域の連帯が必要と感じます。

自治会を脱会する人もおり、情報の伝達、まとめりといった不備がでてきています。

#### 1. 公園の管理が不満

安全管理が不十分。たつのこ山、石段で崩落しそうな箇所があり、いつ迄も放置されている。定期的な見回りは、やっていないのか。

#### 2. 市道の草刈り

他市の人から、龍ヶ崎の市道の草刈りはやっていないのか、とっても見にくいと言われる。

#### 3. 情報提供

コロナについて、今、市としてどんな事をやっているのか、ワクチンについての見通しは、など情報がさっぱり判らない。

#### 4. その他

道の駅計画は即時中止すべき。

高齢者になった時、市役所、病院へ行く交通手段（コミュニティーバス）がない。

アンケート結果の公表と実践し、スパイラルアップを図って行く。

近所、となりどうし、日常会話が必要と思います。

市役所職員は特に不正、ごまかしをせず、市民が頼れる存在でいてほしいと願うばかりです。

一人住まいなので病気になった時が心配です。

夜中でもすぐ病院などに連絡できる様な方法がほしいです。

昔ながらの道の舗装工事。街灯が無い道（細道）があるのでつけて欲しい。

福祉の事や、生活困窮者自立支援法、成年後見制度などの事は、今回のアンケートで漠然と理解出来ましたが、もう少し具体的な事の広報などが必要かと思いました（自分も高齢者なので）

民間のパトロール隊

各制度共、周知活動が不足しており、地域福祉活動を促進する為といっても、民生委員・児童委員は知っていても活動事例さえ分らず、連携とかネットワーク形式とか言葉ばかりという気がします。まずは制度によって救済された事例やあてはまる制度がない事例、そしてその情報を毎月公表していく。公表は出来る限りタイムリーに実施し、毎月何かの制度なりを紹介していけば、最低でも12回周知することが可能ですがいかが？

不正を正す
<p>防犯カメラの設置、過度にならない程度に。自治会では住民意思の一致など手続きが面倒で困難。行政サービスとして行えば良い。</p> <p>ウォーキングマップはあるが休息所（又はベンチなど）が少ない。</p> <p>コミュニティバスの効率的運用（A Iの導入など）。走らせていれば良いというものではない。</p>
<p>安心・安全な街づくり、そのための地域の教育向上や社会の整備の充実（警察・消防・その他公共施設等）</p>
<p>防犯カメラの設置</p>
<p>アンケートの目的と違うかもしれませんが、書かせてもらいます。どこの市も人口の減少化は同じですが、対策はあるでしょうか。コロナで生活、働き方が変わりました。生活スタイルも変化したことを感じます。今は、より市での生活がベターです。職場の通勤も少なくなった方も多いと思います。サラリーマンの通勤は最大課題です。市に人が集まることを考えましょう。子供が生まれても生活できる環境が必要です。若い人がいなければ「安心して暮らせるまち」もできないと思います。</p>
<p>子育てしやすい街なので、子どもに優しいまちづくりを私も常日頃思いながら暮らしています。</p> <p>龍ヶ崎の街をウォーキングしながら、楽しそうに過ごしている老人のご夫婦をみると、いつか私もそんなふうになりたい！ と思います。まずは子育て！ しやすい環境を守って！ とりあえず頑張りますので、大人たちが子どもの安全を守ってほしいです！</p>
<p>比較的安心して暮せるところだと思います。</p>
<p>住民による活動への公的支援、特に立ち上げ時 ex. 場所・資金</p>
<p>各支援事業内容の周知、徹底</p>
<p>犯罪を犯せない雰囲気がある街になること</p>
<p>市（職員）及び市議会（議員）が熱意を持って諸課題に取り組み、成果を上げること。</p>
<p>○下水道の普及</p> <p> 駒馬町南区は、所帯数が多いのですが下水道の整備が無いので、できましたらお願いしたい。</p> <p>○関東鉄道の駅を1つ追加してはいかがでしょうか！</p> <p> 駒馬には自動車教習所、来迎院、秋本脳神経外科などがあり、多くの方が利用できると思います。最寄りの駅を増やす事で便利になると思います。</p> <p>○毎年思うのですが、主要道路の脇道（側道）が、ある季節になると胸の辺りまで草が伸びていて、歩くのにも支障をきたします。秋頃には草刈りはする様ですが、何か草が出ない様にまき土を利用するなどして、毎年の除草代をかからなくするのはどうでしょう！ もちろん、最初は費用がかかりますが、何年かは除草しなくても大丈夫だと思います。外国の方が来ても「きれいな街ね」と言われたいですね。</p> <p>○自動車教習所の南側の川がうっそうとしていて汚れています。きれいにしたいです。</p>

ニュータウンに移り住んだ住民として特に感じる事は、住民の殆んどがふる里を持たない人の集まりであり、昔の様な隣組の様な組織のない街であるので、人とのつながりがきわめてうすい。挨拶もろくにしない住民が多い、心のつながりが無い。

もう少し住民として心のある、通じる街づくりをしたいものです。

社会福祉協議会が信頼される組織となるように、役員の人事を含め内部の改善改革を断行してください。

コロナ対策として陽性を判断された方はできれば自宅待機ではなく専用施設を確保して療養されては。(自宅待機を言われた方)

未来を見すえた子供達の教育が一番必要である。

今、目の前にある問題は、長年の蓄積されたものであるのだから、その問題を解決できるのは、子供達になると思います。だから、子供達への教育の充実が、安心してらせるまちの実現には不可欠だと思います。

- ・大人が子供を可愛がり見守ることができるまち
- ・老いも若きも、もっと活動的になれるまち
- ・市が行っている制度を利用できるよう知らせる  
この場合はここへ、その場合はこの方法でとわかり易くする
- ・声掛け運動、あいさつ運動等、簡単にできることから誰もが積極的にそれを推進することと実行すること

- ・行政とのつながり
- ・コミュニケーション不足が壁になっている
- ・ここが積極的に外に出る
- ・利己主義ではなく利他主義の大切な事を理解する
- ・ボランティア活動を積極的に行う
- ・挨拶が誰とでも何処でも出来る事

まだまだ、これ医者や障害者の家族の方は、生活支援、介護支援や相談窓口のこと等を知らない人がたくさんいます。

地域、コミセン等を使用し、色々なサービスの内容や支援の手伝いなどの相談が出来る機会と場所が身近な所があれば、平等に福祉を受けることが出来るかと考えます。

特に近所や身内との会話が無い人はほとんど知らなくこまっている方がいる。

細かい点ですが、歩道の段差がある箇所がほとんどで、ベビーカーや車いすで利用した時、少しの段差でも上がりず困った事が多々あります

他市では全ての歩道をバリアフリーにしている所もあります

改善を望みます

住民ひとり一人が親しみと信頼を持ってお互いに支え合う地域社会を確立し、これから発生が予見される自然災害に対して自己及び行政による的確なる備えを持ち、また様々な社会保障制度を充実させることで、より安心して暮らせるまちとなり、一人ひとりが心身ともに健全で、心にゆとりを持って、不安のない生活を送ることが出来るのではないのでしょうか。

近所付き合いは、最低限に行うとともに、あらゆる情報を共有し、知り得た情報を自分自身分析して生活上のかてとしたい。

地域の役員やボランティア活動を地域で行なっています。  
役員活動を行なっている方は前向きな方が多いですが、役員をやりたがらない、他人とは関わりたくないという方が増加傾向と思われまます。また、権利は主張するが義務は果たさないという方も増えているように思います。特にコロナ禍でますます人間関係が希薄していると感じています。  
せめて自分のできる範囲で地域のためにお手伝いをしたり、挨拶等の声掛けを継続したいと思ひます。

住民どおしの連携（市や社協はそれをうまくサポート、支援）（主ではなく）  
それを支える機関のネットワーク、連携

どれだけ設備やモノが充実しても、最終的には人と人とのつながりが大切であり、必要であると思ひます。  
行政や外部の人が「近所の人と仲良くしてね」と言ったところで実際に行動するのも人なので、啓発しても促進されない、されにくいとは思ひますが、小規模かつ対話のできるようなイベント等を通じて人のつながりを作っていければよいのかなと思ひます。

①活動したい人（できる人）が自由かつ主体的にできる環境を作る。（行政機関を頼らずに活動する）  
②区の役員は輪番制なので、大きな期待は出来ないのが現実であるので、①のような取組が必要。

龍ヶ崎に住んで34年、近隣の皆さんも若い人が出て高齢者ばかり。自治会での役員等の選出もだんだんと厳しくなっています。私も次回班長等は出来るのかと危惧があります。このように目前に迫った課題に対し、市ではどのような対応を、お考えをお持ちか知りたいです。

1. ゴミ出しルールが守られず困っています。アパート近隣の集積所が顕著で、その監視活動が必要。  
2. 高齢者の積極的なボランティア活動参加への取り組みを。  
3. 当市が現状のまま続くようであれば、転出せざるを得ない考えです。  
住みにくい町になりつつあります。

- ・ 防災対策。馴染地区は大雨時冠水が問題となる。
- ・ 自助・共助の訓練の徹底が必要。
- ・ 駅（東口・西口）及び JR 踏切のバリアフリー化。
- ・ 上記エリア夜間時が暗い。照度不足。防犯対策へつながる。電気料金は市が負担！！
- ・ 高齢者の移動手段がない。「福祉有償運送」を復活させることが急がれる。低料金の移動にタクシー利用はきびしい。
- ・ 準要保護者への手厚い補助が必要。
- ・ 少子化対策として、市内企業への助成。正規と非正規との色分けをなくす。全て正規で働きやすく安定生活を送れば結婚も可能である。

人と人とのつながりによる協力体制の充実

子どもから大人まで一生涯暮らして良かったと思われる町（市）を作ること。  
市民一体型の交流の場となれるような施設の増設を図り、計画的かつ将来性のある市民の憩いの場等？

「自主自立」という言葉はあっても高齢になったり若くしても病やケガにあった時など、同居家族がいても同様な状態だったらどうしましょう。隣近所を頼ることもできなかつたら、市へ援助をするしかないと思います。ご近所で高齢ご夫婦が施設に入れ、より狭い環境の居住になり、私から見たら「入らなかつたら良かった」などと他人事ながら思います。  
「お世話になるから悪い」と律儀なお気遣いからちょっぴりかわいそうになります。ヘルパーさんをお願いしてましたが、結局は施設でした。現在は面会もできず、手紙を出すことと電話をすることしかできません。

1. 市、社会福祉協議会、警察、町協等ができるだけ連絡を密にして、事あれば直ちに対応できる態勢確立が必要。  
1. 住民同士の連携も重要であり、その為には町内会、自治会活動を活発化する必要がある。

- ・住民相互の助け合い
- ・人につなげる・つながる  
(例) 長山の町会での活動(町内に住まう人一人一人が何かしらの趣味・クラブに加入し互いに楽しむ活動を推進している。)  
このような活動を馴染地区に取り入れることが出来ないかと考える。  
まず・居場所づくり
  - ・支援が必要な人(全員)の実態把握
  - ・相談・支援に必要なNPOなどにつなげる
- ・住民が孤立しない・させない為に顔見知りになることから始める。
  - 1、町内会活動への参加、市行事への参加
  - 2、民生委員、教育委員の活動を広く周知させ、利用活用しやすくする
  - 3、市の窓口を親しみのあるものにする(西口にあるステーションは一度も行ったことがない。)出来ることからはじめ、互いにつながりつながる。孤立しない・させない街づくりができたらと思う。

- ・独居、支障者への支援体制は不足はあるがほぼ充実されていると思えますが、老々介護者(二人暮らしの方)への相談相手、支援窓口がない状況。
- ・病院(中規模以上)が1つしかない状況で常駐医師も減少している。待ち時間が多く、市中のハブとしての機能は損ねられていると思います。
- ・ゴミ出し当番等(自治会ルール)が出来ない者が散見されてきました。その自治会も年をとり、判断できず班の中で相談してほしい。との答えとなっており、少しでも正当な判断(市役所 etc)に入ってほしい。
- ・住民の安心・安全は自治会等が行動すべきと理解していますが、自治会等は弱体化しており、市役所からの指導も必要と思う。
- ・アパートに多い外国人とのコミュニティの体制づくりのトータルの指導が欲しい。

コミュニティバスの利用者が少ないのは乗車料金が高いからではないかと思います。

高齢者は無料にするなどすれば、運転免許証を返上する人も増え、交通事故を減らすことが出来るのではないかと思います。

高齢者が行動しやすくなれば、福祉サービスを受ける機会も増えるのではないかと思います。「コミュニティバスにいつも高齢者が乗っている。そんな優しい街づくりを期待しています。」(コミュニティバスフリーパスは、例えば75歳以上とか80歳以上とかの年齢制限を設けて)

もう2度と税金をドブに捨てるようなことをしないでほしい。駅名が変わった結果何が変わりましたか?市民に報告する必要があると思います。

現在ボランティア活動しておりますが、高齢化に伴い役員になる人がいなく、個々の意見を聞いてみると、わずらわしい活動には参加したくないと思う人が多く、今後自治会組織他の団体組織の存続が厳しい状況である。

近所の人とのつながりは必要だと思いますが、強制になってしまうと無理な部分が出てくると思うので、地域のイベントなどで集まるのをきっかけにして、交流を深めていくのが良いのではと感じています。

高齢化、少子化、人口減少と市の活性化が損なわれつつあります。市の税収も減少するなか、将来を見据えた予算執行を行っていただきたい。